

## はじめに

このたび、「みどりの学校ファーム参考資料集」を作成しました。みどりの学校ファームは、関係者の皆様の御尽力によって、その輪が着実に広がってきています。

この参考資料集は、今後の取組の一助としていただけるよう、既に充実した取組を実践している学校の事例などを掲載したものです。

「みどりの学校ファーム」を舞台として、学校と地域がその絆を深め、未来ある子どもたちが地域によって健やかに育まれることを願います。

本参考資料集が、多くの皆様に御活用いただければ幸いです。

埼玉県みどりの学校ファーム推進会議

## みどりの学校ファーム参考資料集 目次

I	小中学校の取組事例紹介 .....	1
1	学校ファームを教育活動に活かす	
2	小中学校の取組事例	
(1)	校外の農地を活用した学校ファーム .....	3
<b>稲作体験</b>		
ア	桶川市立桶川西小学校 .....	4
イ	川島町立三保谷小学校 .....	5
ウ	皆野町立国神小学校 .....	6
エ	美里町立東児玉小学校 .....	7
オ	八潮市立八條北小学校 .....	8
<b>野菜の栽培体験</b>		
カ	さいたま市立大牧小学校 .....	9
キ	さいたま市立大砂土東小学校 .....	10
ク	さいたま市立海老沼小学校 .....	11
ケ	秩父市荒川東小学校 .....	12
コ	深谷市立豊里小学校 .....	13
サ	鴻巣市立鴻巣西中学校 .....	14
シ	朝霞市立朝霞第三中学校 .....	15
ス	蓮田市立黒浜西中学校 .....	16

(2) 地域や学校の状況に応じて工夫した学校ファーム .....	17
----------------------------------	----

校内に水田を設置した事例

ア 草加市立花栗南小学校 .....	18
イ 朝霞市立朝霞第三小学校 .....	19
ウ 飯能市立美杉台小学校 .....	20
エ 松伏町立金杉小学校 .....	21

校内に畑を設置した事例

オ 富士見市立関沢小学校 .....	22
カ 三芳町上富小学校 .....	23
キ 嵐山町立菅谷中学校 .....	24

郊外の水田で稲作体験をする取組

ク 戸田市立喜沢小学校 .....	25
-------------------	----

農業高校の実習田で稲作体験をする取組

ケ 熊谷市立石原小学校 .....	26
-------------------	----

(3) 学校ファームの取り組みを通じた特色ある体験活動 .....	27
-----------------------------------	----

ア 鳩山町立鳩山小学校 .....	28
イ 小鹿野町立長若小学校 .....	29
ウ 加須市立礼羽小学校 .....	30
エ 幸手市立長倉小学校 .....	31
オ 騎西町立高柳小学校 .....	32
カ 所沢市立東中学校 .....	33
キ 所沢市立上山口中学校 .....	34
ク 越谷市立北陽中学校 .....	35

II みどりの学校ファームアンケート結果 .....	36
----------------------------	----

III みどりの学校ファームシンポジウムの記録 .....	40
-------------------------------	----

IV JAグループさいたまの取組 .....	52
------------------------	----

V みどりの学校ファームを支援する広域サポーター .....	56
--------------------------------	----

VI 参考資料 .....	63
---------------	----

- 1 環境アシスタント制度
- 2 食育ボランティア
- 3 彩の国 うらわコンポスト

# I 小中学校の取組事例紹介

## 1 学校ファームを教育活動に活かす

「みどりの学校ファーム」とは、学校単位に農園を設置し、心身共に発育段階にある児童生徒が、複数の農業体験活動を通じて、生命や自然、環境や食物などに対する理解を深めるとともに、情操や生きる力を身に付けることをねらいとした取組です。

「みどりの学校ファーム」（以下「学校ファーム」という）は、埼玉県独自の取組として、平成20年度からモデル的に開始し、平成20年10月に「埼玉県みどりの学校ファーム推進方針」を、平成21年2月には「埼玉県みどりの学校ファーム推進マニュアル」を策定しました。

平成21年度からは、県内小中学校における取組が本格的にスタートし、「埼玉の子ども70万人体験活動」の一環として推進しています。

「学校ファーム」を教育活動に活かしていくには、自校で取り組む農業体験活動のねらいを設定し、地域や学校の状況に応じて、児童生徒が体験する内容や時期、時間数などを明確にして教育活動に位置付けるなど、計画的に実施していくことが必要です。

その際、地域や学校の状況に応じて、農地管理や栽培技術について地域の農家、JAの方などの助言や支援を受けたりするなど、地域の協力を得ることも大切です。

以下に、小学校、中学校それぞれにおける農業体験活動の教育活動への位置付けと取組事例を掲載しました。各学校においては、是非、実践の参考として御活用ください。

○ 小学校における農業体験活動の教育活動への位置付け (平成21年10月末現在)

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
理科			35.0%	44.3%	42.9%	51.4%
生活	68.9%	94.1%				
総合			41.6%	34.9%	61.7%	33.4%
特活	8.5%	9.0%	9.9%	11.0%	14.6%	15.6%
その他	2.3%	2.7%	4.6%	2.9%	8.5%	3.9%

「みどりの学校ファームに関するアンケート」農地活用推進課、家庭地域連携課調べ(複数回答可)

※ 対象：農業体験活動実施校697校(さいたま市を除く校外、校内での取組)

※ 「総合」は「総合的な学習の時間」、「特活」は「特別活動」の略

○ 中学校における農業体験活動の教育活動への位置付け (平成21年10月末現在)

	1年	2年	3年
総合	18.1%	19.8%	11.2%
特活	14.7%	13.4%	9.9%
技術・家庭	4.7%	6.5%	13.8%
その他	19.0%	20.3%	21.6%

「みどりの学校ファームに関するアンケート」農地活用推進課、家庭地域連携課調べ(複数回答可)

※ 対象：農業体験活動実施校232校(さいたま市を除く校外、校内での取組)

※ 「総合」は「総合的な学習の時間」、「特活」は「特別活動」の略

## 2 小中学校の取組事例

### (1) 校外の農地を活用した学校ファーム

#### 稲作体験

- ア 桶川市立桶川西小学校
- イ 川島町立三保谷小学校
- ウ 皆野町立国神小学校
- エ 美里町立東児玉小学校
- オ 八潮市立八條北小学校

#### 野菜の栽培体験

- カ さいたま市立大牧小学校
- キ さいたま市立大砂土東小学校
- ク さいたま市立海老沼小学校
- ケ 秩父市立荒川東小学校
- コ 深谷市立豊里小学校
- サ 鴻巣市立鴻巣西中学校
- シ 朝霞市立朝霞第三中学校
- ス 蓮田市立黒浜西中学校

みどりの学校ファーム

# 桶川市立桶川西小学校

稲作体験



第4学年

## 特色

- 地域の水田を借り、4年生全児童の手により春の田植え、秋の稲刈りを行っている。
- 収穫したお米は、学校給食の食材となり、全校児童でおいしくいただいている。
- 体験から学んだことをまとめて発表したり、課題を広げて追究したりしている。

## 成果

- 米作りの一端を体験により理解することができた。
- 水田が地域内にあるため、児童は稲の成長を継続的に観察することができた。
- お米に限らず、食べ物を大切にしようとする心が育っている。

みどりの学校ファーム

# 川島町立三保谷小学校

稲作学習体験



全校での稲刈り体験

第5学年

## 特色

- 今年度、稲作学習検討委員会を立ち上げ、学校教育目標「やさしく、かしこく、たくましく」に沿って学習のめあてを再確認し、「命への慈しみの心を育て、収穫の喜びを体験する。植物と自然の関心に興味をもつ。協力する心と連帯感を育てる。」として学習に取り組んだ。
- 本校の稲作学習は、種まきから始め、田植え、水やり、稲刈り、乾燥まで児童が主体になって行う。収穫した餅米は、三保谷フェスティバルでお餅や赤飯にして味わった。

## 成果

- 自分たちがまいた種籾が発芽し、やがて青々とした稲になり、餅米になっていく過程を体験し、植物が育っていく生命の不思議さ、収穫までの大変さと喜びを実感することができた。
- 5年生が主体となって活動を行っている姿を見て、下級生がやがて自分たちも、この伝統を受け継いでいくという自覚が育っている。

みどいの学校ファーム

# 皆野町立国神小学校

米づくり体験



第5学年

## 特色

- 農家の方や地域の「環境を守る会」の方々の指導を受け、苗床づくりから脱穀・精米まで、米づくりの全てに児童がかかわっていく。機械にたよらない昔ながらの方法で、米づくりに取り組んでいる。
- 米をつくることだけでなく、田に住む生き物の調査や稲穂の開花観察、かかしづくり等にも取り組んでいる。

## 成果

- 米づくりの全てを実体験することで、米ができるまでの過程や米づくりの苦労、大変さ、楽しさを各児童が実感することができた。
- 問題解決や探究活動に主体的、創造的に取り組む児童の姿が多く見られるようになってきた。

みどいの学校ファーム

# 美里町立東児玉小学校

ライスでGO！



第5学年

## 特色

- 児童が苗づくりから田植え、水の管理、稲刈り等の米づくり体験をする。収穫したお米は、餅をつき全校児童に配り、収穫祭を開催して収穫の喜びを味わっている。
- 米づくりに関する学習を、農業に携わる地域の方々をはじめ、保護者やPTA役員さんに指導・協力をいただいている。

## 成果

- 毎日食べているお米が食べられるようになるまでを自分たちで実際に体験することとおして、生命尊重や感謝の心などが育まれた。
- 米づくりをとおして、自然保護や環境問題などにも意識を広めることができた。
- 指導・協力いただいている地域の方や保護者の方など多くの方々とのかかわりをもつことができ、地域への愛着がはぐくまれた。

# 八潮市立八條北小学校

## 勤労生産体験



田植え



サツマイモの収穫



稲刈り



トマト料理

4年

2年

## 特色

- 地域の方の協力により、平成14年頃から継続して児童が田植えや稲刈りの農業体験学習をさせていただいている。稲作の大変さや収穫の喜び、主食であるお米のありがたさを学んでいる。
- 校内の畑(10a)を活用し、トマトやサツマイモ等の栽培をしている。収穫後、親子でその素材を生かした料理を作り、いただいている。トマトの苗は食品メーカーより毎年寄贈されている。

## 成果

- 一粒一粒の米の大切さを子どもたち自身が実感できた。収穫後、親子で飯盒炊飯をし、カレーライスやおむすびを作って食べ、収穫の喜びを分かち合った。
- 米や野菜の命をいただいていることが再確認でき、給食も好き嫌いなく食べる子どもが多くなった。
- 栽培活動や料理を作る活動を通して、地域や家庭との連携が深まり、学校への支援体制が充実してきた。

みどりの学校ファーム

# さいたま市立大牧小学校

農作業実施体験



第4学年

## 特色

- 地域の伝統文化（見沼田んぼ）を生かしながら、野菜づくり活動を通して「ふるさと意識」を育てる。
- 農作物への関心を高め、食べ物や自然への感謝する心を育てるとともに、地域の指導者とのふれあいを通して作物を作る喜びを知る。

## 成果

- 地域の農業指導者を中心に野菜づくりを通して、学校全体が一体となり、児童の農業体験活動の支援体制（草むしりボランティアや父親活動などの手入れ作業等）ができました。
- 子供たちの関心が高くなり、作物のできる過程に関心を持って調べたり、観察カードも細やかに記入したりできた。また、作物を給食等全校で味わうことができた。

## みどりの学校ファーム

# さいたま市立大砂土東小学校

### サツマイモ栽培体験



### お父さんの会



## 特色

- 地域の農家の方を講師に、「お父さんの会」が中心となって、植え付け・草取り・収穫などを行なっている。
- 収穫したサツマイモは、参加者のお土産としたり、学校給食の食材にしたりしている。
- 土曜日に活動するので、児童・保護者と教職員がゆとりをもってふれ合うよい機会になっている。

## 成果

- イモや野菜など、栽培することへの関心が高まった。
- 育てたイモを食べることで、給食や食材への関心が高まりつつある。
- 児童・保護者・地域講師と教職員とが一つの目標に向かって取り組むことで、「絆」が強くなった。

みどりの学校ファーム

# さいたま市立海老沼小学校

野菜作り体験



第5・6学年

## 特色

- 地域の畑を借り、5・6年生児童の手により、種まき・収穫をしている。
- 収穫した野菜は、自分たちで食べるだけでなく、学校給食の食材にもなっている。

## 成果

- 野菜作りを体験し、生育の過程・栽培の方法について理解できた。
- 育てた野菜だけでなく、生命を大切にしようとする心が育っている。

みどりの学校ファーム

さつまいもづくり体験

# 秩父市立荒川東小学校



全学年

## 特色

- 1100㎡の広い学校農園で、主に「そば」や「さつまいも」、「じゃがいも」をつくり、地域の方の協力も得ながら農業体験活動を行っている。
- さつまいもづくりは全学年・全児童で取り組み、苗植え準備、苗植え、草取り、収穫の体験をした。収穫できたさつまいもはすべて収穫祭（学校行事）で焼きいもにして食べている。

## 成果

- さつまいもに栄養を行き届かせる過程の作業も体験できた。また、さつまいもづくりは比較的失敗が少なく、数量も多くできるので、収穫の喜びを全児童が味わうことができた。
- 就学前の園児や保護者、学校関係者の方なども収穫祭に参加してもらい、地域ぐるみで収穫を感じることができた。

## みどいの学校ファーム

# 深谷市立豊里小学校

ねぎづくり体験



第5学年

## 特色

- 「総合的な学習の時間」の「ねぎ博士になろう～深谷のねぎをしまんしよう～」の学習の中で、地域の方に教えていただきながら土づくりや苗植え、草取り、土寄せ、追肥、収穫など、ねぎづくりにかかわることを体験する。
- ねぎについて課題を見つけ、調べ、まとめ、発表する。また、収穫したねぎを使ってねぎを料理し、紹介し合う。

## 成果

- 農家で話を聞いたり、青果市場を見学したり、学校の畑でねぎを育てたりしてねぎに関心をもち、「日本一のねぎ」づくりを目指す自分たちの地域を誇りに思うことができた。
- ねぎづくりを体験しながら、ねぎを育てる工夫や苦労に気付くことができた。

# 鴻巣市立鴻巣西中学校



## 第1学年

### 特色

- 本校では、総合的な学習の時間に、農園活動を行っている。全学年生徒が年間の作業計画に沿い、除草をはじめ、種まきから収穫まで、作物を育てる喜びを通して豊かな体験活動を行っている。
- 地域の方から農地をお借りし、学年ごとに専用の農園を管理し、収穫した農作物で収穫祭を行っている。

### 成果

- 農作業を体験することで、作物を育てる厳しさ、難しさや、収穫の喜びを肌で実感することによって、野菜等の食品に関する認識や思いが変化してきている。
- 生徒自身の手で育てた作物に対しての愛着は、ものを大切に  
する心に通じ、より良い人間関係の一助になっている。

## みどりの学校ファーム

# 朝霞市立朝霞第三中学校

### 三中「学校ファーム」体験



第2学年

## 特色

- 本校では、学校の近くに地域の農家の方から畑をお借りし、2学年全体で総合的な学習の時間に、サツマイモやラディッシュ・枝豆等の野菜の植え付けから草取り、収穫まで行い、栽培活動の知識と技術等を習得することをねらい、農業体験活動に取り組んでいる。また、この体験をもとに、命の大切さや地球環境問題等を課題として学習に取り組んでいる。

## 成果

- 一連の農業体験活動を通して、多数の生徒が、農作業の楽しさや大変さ、互いに助け合い・協力することで手にする収穫の喜びや自然環境や食物の大切さを学ぶことができた。
- 学校ファームの設置により、農家の方ばかりでなく、保護者や地域の方から指導や援助を受け、地域の輪が広がった。

# 蓮田市立黒浜西中学校

## 農業体験活動



第1学年：ほうれん草の種まき

### 特色

- 本校では、今年度から学校近くの農地を借用し、農業体験学習を第1学年で行うことにした。
- 地域の方を指導者として迎え、土作り、畝作り、種まき、間引き、そして収穫等を体験している。畝の作り方、苗の植え方、肥料のあげ方、道具の使い方と管理、さらに肥料と農薬の違い等について学んでいる。

### 成果

- 畑の草取りから始まり、土作り、支柱立て、畝作り、種まき、間引き、水やり等の体験を通して、作物を育てることの大変さ、収穫の喜び等、多くのことを学んだ。
- 収穫した野菜を給食に使用したこともあり、食べ物を粗末にしない気持ち等も醸成できた。
- 体験を通して多くの地域の方々とふれあうことができた。

(2) 地域や学校の状況に応じて工夫した学校ファーム

校内に水田を設置した取組

- ア 草加市立花栗南小学校
- イ 朝霞市立朝霞第三小学校
- ウ 飯能市立美杉台小学校
- エ 松伏町立金杉小学校

校内に畑を設置した取組

- オ 富士見市立関沢小学校
- カ 三芳町立上富小学校
- キ 嵐山町立菅谷中学校

郊外の水田で稲作体験をする取組

- ク 戸田市立喜沢小学校

農業高校の実習田で稲作体験をする取組

- ケ 熊谷市立石原小学校

## みどいの学校ファーム

# 草加市立花栗南小学校

### 米づくり体験



第5学年

## 特色

- 校地内のミニ田んぼで、田おこしから田植え、稲刈り、精米までの一連の農作業を地域の農家の方のご協力を得ながら5年生全員で行っている。
- 御協力をいただいた農家の方や地域の方々を招待し、収穫したお米を使ったカレーライスを食べていただくとともに、学習の成果等を発表している。

## 成果

- 自分たちが日頃食べている米がどのように作られているのかを体験的に知ることができるとともに、日本の農業についての関心を深めることができた。
- 体験を通して、農作業の大変さや収穫の楽しさを知り、米をはじめ、食べ物を大切にする気持ちを養うことができた。

みどいの学校ファーム

# 朝霞市立朝霞第三小学校

米づくり体験



第5学年

## 特色

- 総合的な学習の時間に位置付け、近くの米づくり農家の方を学習応援団としてお迎えし、水田の準備・田植えから稲刈り・脱穀までを一人一人が実体験している。
- 校地内の一角を米づくり専用のスペースとして設置しており、米づくりの一連の作業過程を日々体験・観察できる。応援団の方の細かな支援のもと、毎年の収穫量は見事である。

## 成果

- 収穫までの体験を通して、米づくり農家の方々の思いや苦労を実感でき、自然の偉大さや力強さに驚き、食べ物を大切にしようとする心が育っている。
- 米づくり農家の仕事、日本の食料生産、主食である米のこと、ご飯についてなど、他教科との関連のもと多面的な学習ができ、食生活の見直しや環境問題への関心が高まった。

みどいの学校ファーム

# 飯能市立美杉台小学校

米づくり体験 in 米たんぼ



第5学年

## 特色

- 校地内にある約180㎡の水田で、地域の応援団や保護者ボランティアの支援をいただきながら、5年生が総合的な学習の時間に米づくりを体験している。
- 種蒔きから代かき、田植え、夏の草取り、稲刈り、脱穀、収穫祭、縄細工づくりなど、年間通して地域の方や保護者の方と交流しながら活動を進めている。

## 成果

- 籾から育てた「ミネノシラユキ」が秋にたわわに実り、籾付きで120kgの収穫があった。体験を通して米づくりの苦労がわかるとともに、食農への関心が高まった。
- 収穫祭や地域の行事（美杉台フェスタ）では、楽しい餅つきが行われ、地域の方とのつながりがより強くなった。

みどりの学校ファーム

# 松伏町立金杉小学校

米づくり体験



第5学年

## 特色

- 地域の農家の方の支援をいただき、「田植えー稲刈りー餅つき」と一連の稲作体験活動を行っている。
- 収穫祭には餅つきをしてみんなで食べたり、お世話になっている人たちにお餅を届けたりする予定である。

## 成果

- 稲作体験活動・調べ学習などを通して、米づくりの意義・過程や大変さを学習・体験することにより、米づくりのよさ・重要性などを実感することができている。
- 校内に新たに水田を設置したので、稲の生育を毎日、細かく観察できている。

## みどいの学校ファーム

# 富士見市立関沢小学校

野菜の栽培・収穫体験



全学年

## 特色

- 本校は敷地内に広大な学校ファームを設置している。各学年の区画毎に、季節の野菜（かぶ、大根、チンゲンサイ、サツマイモ、ジャガイモなど）を栽培している。
- 校内にファームがあることで、作物の成長や世話が容易にできることや、教科の学習や学年の取組など、学校の教育活動の様々な場面で活用している。

## 成果

- 4月から計画を立て、土おこしから種（苗）植えを学校全体で進め、収穫の喜びや生き物を育てる苦労を体験できたことは、子どもの情操を育てる良い機会となった。
- 学校の様々な教育活動に活用することで、効果的な体験活動を実施することができ、学習に意欲的な児童が増えた。

みどりの学校ファーム

# 三芳町立上富小学校

農業体験活動



全 学 年

## 特 色

- 本校では、PTAや地域の方々の協力をいただいて農業体験活動（とめっこ農園）に取り組んでいる。いろいろな種類の野菜の種まき・苗植え・草取り・水やり・収穫といった一年のサイクルを体験することで、自然の不思議さや命の大切さ、地域の方への感謝、地域への愛情等を感じ取る「豊かな心」を育てることをねらいとしている。

## 成 果

- 農業体験活動を通して、協力する力、自分の仕事への責任感、お世話になった方々への感謝など、豊かな心が育ちつつある。
- PTAや地域の方との連携を図りながら、計画的に農業体験活動に取り組む中で、児童は自然と接しながら収穫の喜びを味わい、農業や食生活への理解や関心を深めることができた。

みどりの学校ファーム

# 嵐山町立菅谷中学校

勤労生産体験



第1学年

## 特色

- 生徒の農業体験活動をとおした生命の尊重、地域とのふれあい、食育の推進等をねらいとして、校地内の一画を整地するところからスタートし、栽培、収穫まで取り組んだ。
- 収穫した作物は、自分たちで食べるだけでなく、学校給食の材料に利用したり、学校へのお客様にふるまったり、職業体験でお世話になった方々にお礼として活用した。

## 成果

- 総合的な学習の時間として、自然体験や職業体験、生産活動など生徒が積極的に学習する貴重な場が設定できた。
- 人間関係づくりや学級づくり、望ましい勤労観・職業観の育成が図れた。さらに自然や地域の方とのふれあいから、生命の大切さや周りの方々に感謝する気持ちが育ってきた。

みどりの学校ファーム

# 戸田市立喜沢小学校

喜び沢山 米づくり体験



第5学年

## 特色

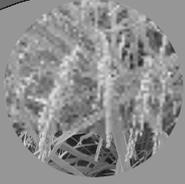
- 学校応援団の方の協力で、菖蒲町にある田んぼをお借りして、田植え、稲刈りを行っている。校内ではバケツ稲を育て、水量の調整・草取り・脱穀・精米を行った。
- 総合的な学習の時間を中心に、理科の発芽と成長、社会科のお米作り、収穫後は家庭科の時間にお米を炊いて食したり、農家の方の米作りに関するお話を聞いたりすることを年間計画に位置付け、まとめの発表会では田んぼ協力者を招待して、感謝の意を表すなど、道徳の実践にもつなげている。

## 成果

- 田植えから稲刈りまで体験することで、農家の方の苦勞だけでなく収穫の大きな喜びも体験することができた。
- 少し油断すると稲が弱ってしまったり、突ってくると雀に食べられてしまったりする体験から、生命の尊さや自然に対する畏敬の念を感じることができた。
- 多くの手をかけて収穫までこぎ着ける体験は、勤労生産の喜びや貴重なキャリア教育につながり、食べ物を大切にするという食育の面でも子どもたちの心をはぐくむことができた。

# 田植え・稲刈りに感謝です!!

## 熊谷市立石原小学校 第5学年



途中、観察に行きました。花が咲いていました。いっぱい実をつけてほしいと思いました。



4クラス141名です。学校応援団のコーディネーターの方に教えていただきました。

「とったぞー」と大きな声が上がりました。



たくさんの実がついていて、うれしくなりました。稲刈りがまを使って収穫です。



### 特色

- 学校の近くに田んぼがないため、近くの農業高校にお世話になり、高校の実習田で体験させていただいた。
- 学校応援コーディネーターをはじめ、地域の皆様に応援していただいた。

### 成果

- ほとんど全員が初めての体験である。食べ物を育て、食べる体験を通して、植物の生長の不思議さ、自然環境の大切さ、働くことの大切さを学んでいる。
- およそ半年の間、地域の農家のボランティアの方たちに優しく接していただき、ふれあうことができた。



### (3) 学校ファームの取組を通じた特色ある体験活動

- ア 鳩山町立鳩山小学校  
「大豆」の栽培、収穫、調理、試食まで行う取組
- イ 小鹿野町立長若小学校  
収穫米を全校集会や給食で活用、稲わらでたて穴住居を作る取組
- ウ 加須市立礼羽小学校  
昔の道具で米づくりを行う取組
- エ 幸手市立長倉小学校  
育てた大豆や米でみそを作り、味噌汁づくりなどを行う取組
- オ 騎西町立高柳小学校  
「そば」の種まき、栽培、そば打ち、試食まで行う取組
- カ 所沢市立東中学校  
収穫した作物を林間学校や収穫祭、PTA行事で活用する取組
- キ 所沢市立上山口中学校  
河川浄化活動と農業体験活動を関連させた取組
- ク 越谷市立北陽中学校  
収穫物で餅つきやおはぎ作り、スイートポテト作りなどを行う取組

みどりの学校ファーム

# 鳩山町立鳩山小学校

大豆栽培調理体験



第3学年

## 特色

- 総合的な学習の時間に、「食と健康」の題材のもとで鳩山町の特産“大豆”に視点を当て、その栽培・収穫・調理・試食の体験をとおして、健康意識を高める学習を実施した。
- 埼玉県「みどりの学校ファーム推進事業」を推進すべく、広い学校園のない本校でもできる学級園やプランターでの花・野菜栽培に挑戦した。

## 成果

- 児童の継続的な調べ学習や栽培～試食体験活動をとおして、栄養豊富な健康食材“大豆”への理解が児童に浸透した。
- 水やりの難しさ（根腐れ、枯らす）や病虫害被害にあうことを経験した。また、自分たちで作った大豆を、自分たちで調理して食べた喜びを存分に味わうことができた。

# 小鹿野町立長若小学校

## 勤労生産体験



第5,6学年

## 特色

- 育苗箱へのもみ蒔き、育苗、田植え、稲刈り、脱穀、精米などの作業を5・6年生を中心に地域の方々に教えていただきながら全児童が体験する。秋の全校お楽しみ集会で、一人一人が自分でおにぎりを作って食べ、みんなで収穫を祝う。残ったお米は家庭で試食し、給食にも使用し有効に活用している。また、古代の文化や古代人の苦労を知るために稲わらを活用してたて穴住居を復元し、古代人を体験する。

## 成果

- 米づくりを通して収穫の喜びを味わい、食べ物を大切にする気持ちが高まった。また、稲わらの活用等についても体験学習として効果があった。
- 友だちと協力する大切さ、楽しさを体験することができた。
- 地域の方々と児童との交流を通して、学校に対する理解と連携を深めることができた。

みどいの学校ファーム

# 加須市立礼羽小学校

昔の道具で 脱こく体験



第5学年

## 特色

- 脱こく機を使った手作業による脱こく体験
- 田植えから稲刈り、脱こくまで  
自分たちの手で行う米づくり体験
- 米づくりのプロ（学校応援団）の方の継続した指導

## 成果

- 農家の方の労働の大変さが分かった。
- 手作業による脱こくの楽しさを味わった。
- みんなで協力し助け合うことの大切さが分かった。
- お米を大切にしようとする心が育った。
- 生き物を大切にしようとする心が育った。

みどいの学校ファーム

# 幸手市立長倉小学校

みそづくり体験



第5学年

## 特色

- 自分たちで育てた大豆や米を使ってみそづくりを行った。3日間にわたり地域の方々から指導を受けながら、子どもたちは米麴づくりを体験したり、茹でたての熱い大豆を手でつぶすなど、様々な過程を体験し、長倉みそをつくった。
- 次学年では、自分たちのつくった長倉みそで家庭科の時間に味噌汁をつくったり、お世話になった人たちに長倉みそを配ったりする。

## 成果

- 大豆や米を育てることやみそづくりを通して、子どもたちに食の大切さやそれに携わる人々への感謝の気持ちなどを学ばせることができた。
- 味噌づくりは、日常ではなかなか体験できないことだけに、子どもたちにとって貴重な体験となった。

## みどりの学校ファーム

# 騎西町立高柳小学校

### そばづくり体験



## 第5学年

### 特色

- 騎西の特産品であるそばを教材にして、種まき、栽培、刈り入れ、脱穀等の一連の活動を体験し、最後に自分たちで栽培したそば粉でそばを打ち、みんなで楽しんで試食している。
- 地域の「そば会」の皆様の全面的な協力のもと、毎年5年生が体験活動を行っている。穀物を栽培するだけでなく、地域の皆様とのふれあいも大切な活動である。

### 成果

- 身近な食材である「そば」ではあるが、実際に種まきからそば打ちまでを体験することは希であり、貴重な体験となっている。
- お世話になった地域の皆様をお呼びして、そばの試食会を開き、感謝の気持ちを表すことにより、地域との交流活動となっている。

みどりの学校ファーム

# 所沢市立東中学校

農業体験活動



第2学年

## 特色

- 本校では、地域の農家から畑をお借りして、総合的な学習の時間を中心に農業体験活動を行っている。主に除草、畝づくり、種まき、肥料・水やり、収穫等の活動を行っており、収穫した作物は林間学校や収穫祭で使用したり、PTAバザーで販売したりしている。これらの共同作業を通して、作る喜びを味わわせるとともに、道徳性の育成や人間関係づくりを進めている。

## 成果

- 子どもたちは作物を作る過程を通して、ものを作る喜びを感じ、成就感や達成感を味わうとともに、思いやりの心が育ってきている。また、収穫祭やバザーでの販売を通して、お世話になった方々への感謝の気持ちを表しており、地域への貢献、地域の一員としての自覚を深めてきている。

みどいの学校ファーム

# 所沢市立上山口中学校

みどりと川の学校ファーム体験



第1学年・生徒会

## 特色

- **里川再生とコラボレーション**  
柳瀬川の浄化に活用した木炭チップを学校ファームの土壌改良材として循環的活用
- **学校内の空き地が学校ファームに大変身**  
学校・PTA・地域住民及び行政が力を合わせ、手作りの畑を整備

## 成果

- **環境問題と農業体験を関連づけた学習を展開**
- **地域コミュニティの発展を支援**  
河川浄化活動・農作業をとおして、学校（生徒）と地域住民が世代間交流《10月11日：柳瀬川に木炭設置 2月14日：土づくり 3月14日：ファーム完成式 6月：収穫祭》
- **1月23日川の再生交流会（埼玉会館）で取組をPR**  
1月30日テレ玉放映

## みどいの学校ファーム

# 越谷市立北陽中学校

### 農業体験活動



5月：田植え体験を1年生と3年生が体験。2年生はさつまいもの苗植え



北陽中農業体験応援団の皆さん

収穫の秋：稲刈りと芋掘り 収穫した餅米は全家庭に「北斗米」として配布  
1年生は、おはぎ作り。3年生は、餅つき。2年生はスイートポテト  
を作りました。



北斗米のシールを貼り配布

## 全学年

## 特色

- 稲作体験の出来る学校として、田植えと稲刈りを行っている。今年は2年生が、サツマイモの栽培にチャレンジした。
- 収穫した餅米は、「北斗米」と名付け全家庭に配布して味わっていただく。更に、1年生は「おはぎ作り」、3年生は「餅つき」をした。2年生は、サツマイモで「スイートポテト」を作って味わった。
- 北陽中農業体験応援団（地域の方々）の協力の下、行われている。

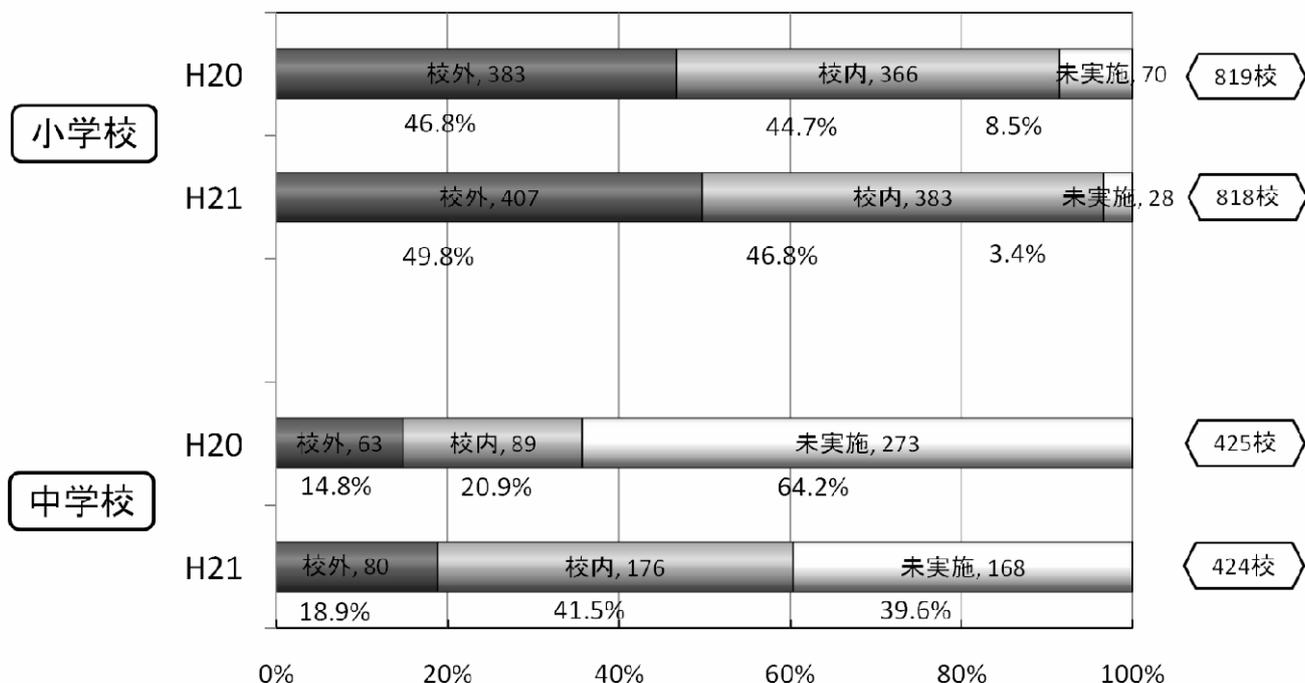
## 成果

- 毎日食べているお米が、どうやって出来るのかを知ることができる。さらに、それを味わい食べ物を大切にする心が育っている。
- 裸足で田んぼの泥の中に足を入れたり、泥んこになったりする体験は、貴重な自然とのふれあいになっている。
- 北陽中農業体験応援団の方々から、田植えや稲刈り、サツマイモの苗植えなどの、学校では教えてくれないちょっとしたコツを学びながら、地域の人々とのふれあいも貴重な体験となっている。

## Ⅱ みどりの学校ファームアンケート結果について

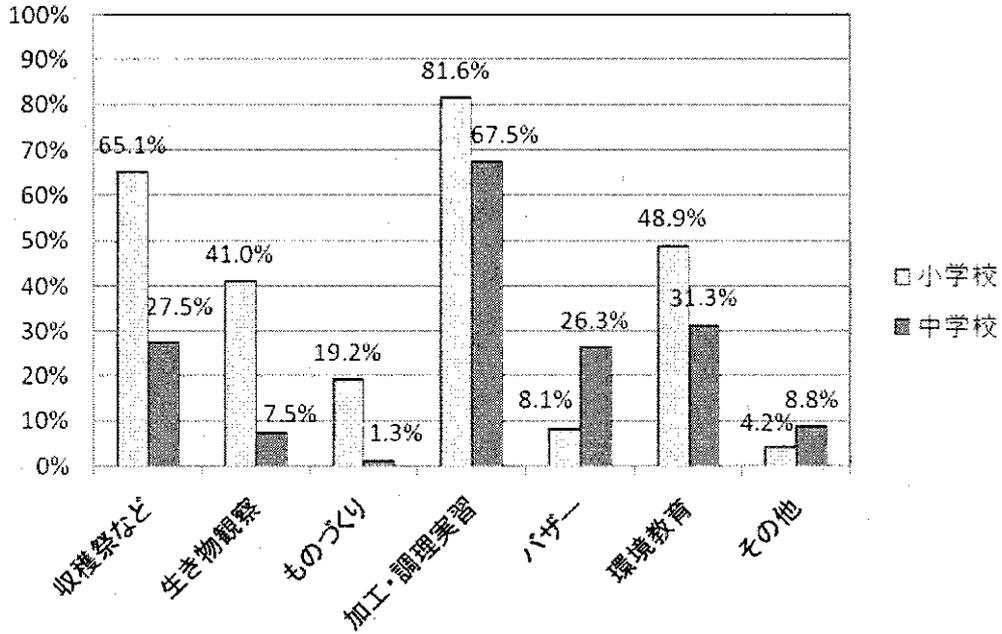
- 1 アンケート実施時期  
平成21年11月(さいたま市は平成22年1月)
- 2 対象  
市町村立小・中学校および県立中学校
- 3 方法  
県教育事務所、市町村教育委員会を通じて、各小・中学校に電子メールでアンケートを送付し、記入後に電子メールで回収した。
- 4 回答数および回答率  
小学校 818校 (回答率 100%)  
中学校 424校 (回答率 100%)

### みどりの学校ファーム取組状況

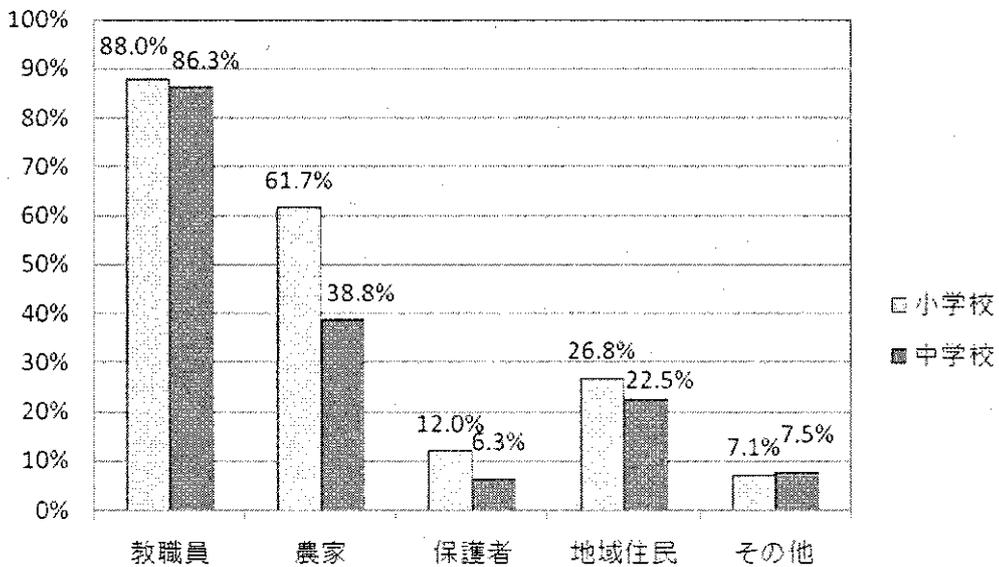


**学校敷地外で学校ファームに取り組む学校に対する質問  
(小学校 407校、中学校 80校)**

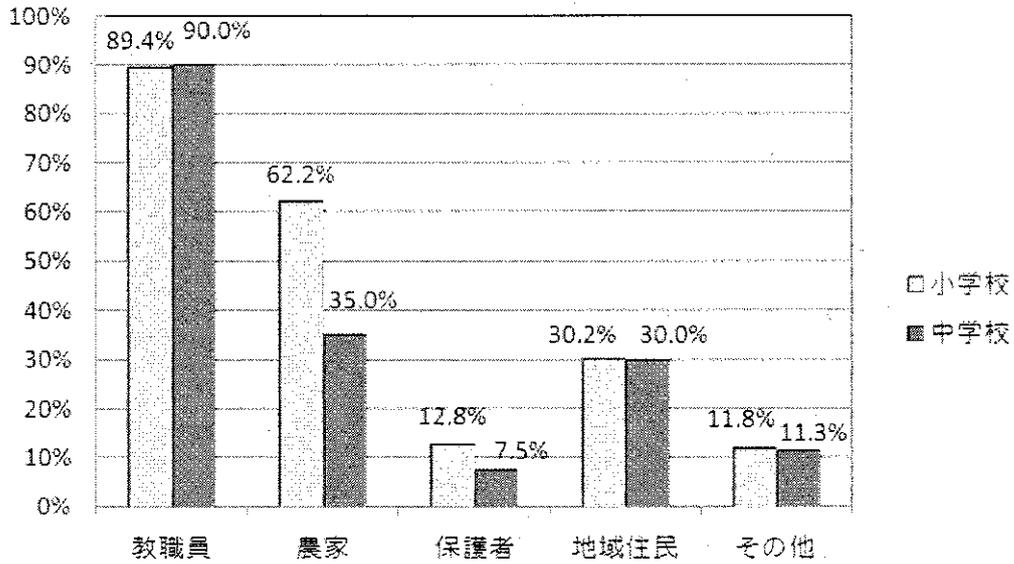
農業体験活動の他に、学校ファームを活用してどのような体験活動を行っていますか。  
(複数回答可)



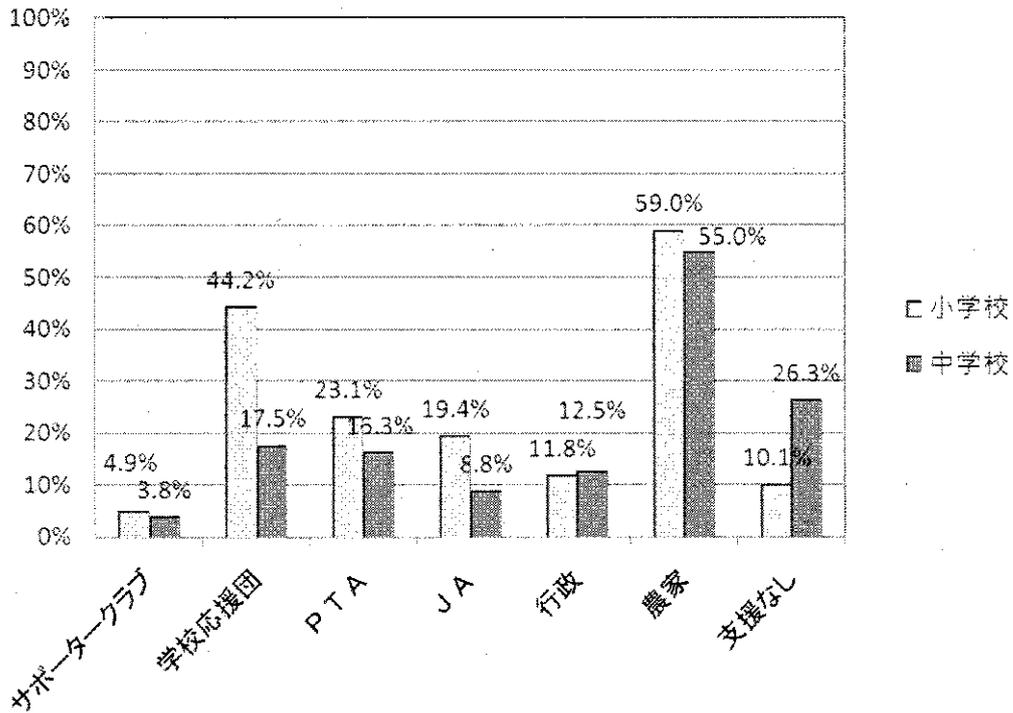
農園を管理しているのはどなたですか。(複数回答可)



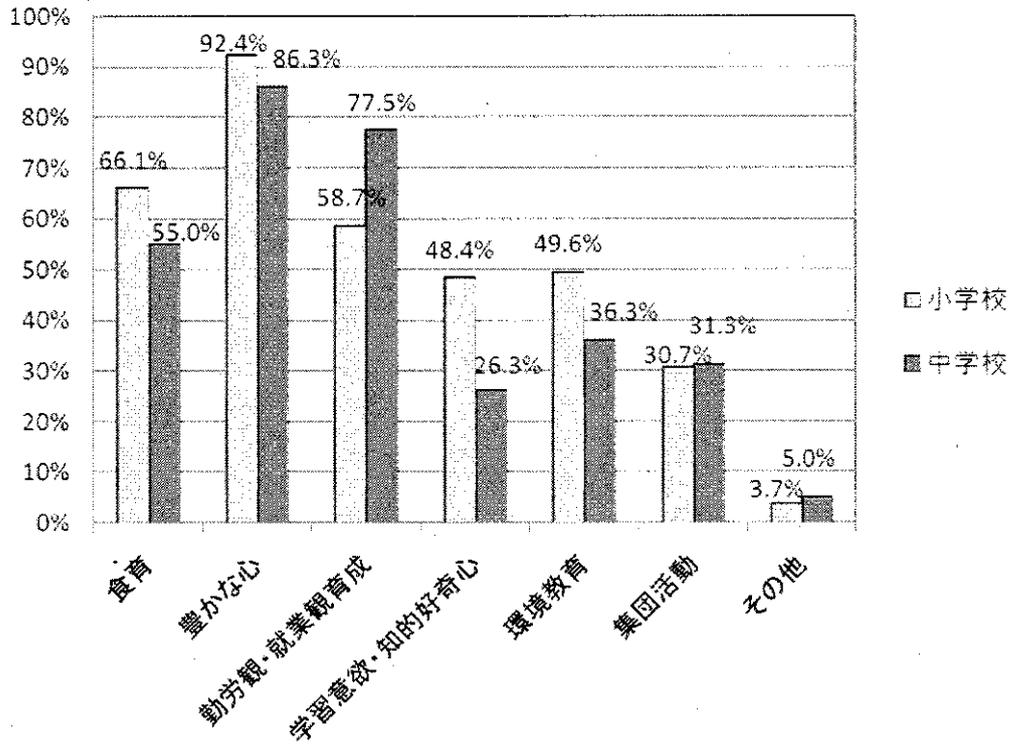
農業体験活動の指導をしているのはどなたですか。(複数回答可)



農園管理や農業体験活動の指導などについてどのような組織に支援していただいていますか。(複数回答可)



農業体験活動のねらいとして、貴校が重視しているものは何ですか。(複数回答可)



## Ⅲ みどりの学校ファームシンポジウムの記録

開催日 平成21年8月24日(月)

ところ 埼玉会館大ホール

### 1 みどりの学校ファーム広域サポーター委嘱

8団体(56頁～62頁を参照)にみどりの学校ファームの応援をお願いしました。

### 2 小・中学生による学校ファーム体験作文の発表

#### 「米作り体験から学んだこと」

川口市立青木北小学校

#### 6年 中島先子さん

去年、五年生だった私たちは、川口市榛松にある、農家の田んぼで、「田植え・稲かり」体験をさせてもらいました。また、五年生の終わりに、「縄ない」体験をさせてもらいました。

田んぼは、大きくて、私が見たことのない生き物もいました。田んぼに入ると冷たく、ぬかるんでいたので、バランスをとれなくなったり、足がはさまってしまうことがあり、その上、持っている苗を落としてしまうこともありました。苗を植える時は、低くこしを落とさなければいけなくて、大変でした。苗を植えても、苗がすぐに倒れてしまって、何度もやり直さなければいけませんでした。やっと苗が植えられた時は、とてもうれしく、「この苗が無事に育ってほしいな。」と思いました。

やっと田植え体験が終わった時には、手足がどろだらけになっていて、足こしがとてもつかれてしまいました。

私は田植え体験をして、米作りをするのは、とても大変なことがよく分かりました。これからは、お米を大切に、食事の時にはお米を一粒も残さず、作ってくださる人に感謝の気持ちで食べようと思いました。

#### 6年 森岡杏月さん

そして、秋になり、私たちは、稲かりをしました。久しぶりに田んぼに来た時に、

びっくりしました。田植えの時に植えた苗が、立派に育って、金色になっていて、素敵だなと思いました。そして、いよいよ稲かりをやり始めます。農家の方のお話をよく聞き、手を切らないように稲をかけていきます。稲かりは、田植えよりもやりやすく、カマでかると「サ



クッ」といい音がしました。かった稲を結ぶ時に一人でやると、ぐらぐらしてしまっただけで、二人で協力してやると、簡単に結べました。結ぶヒモをビニールのひもで結ぶのではなく、一本のわらで結んだのでびっくりしました。私は、稲刈りをやりながら、「稲は無駄な所がなく、実もたくさん実らせてくれるから、貴重な作物だなあ。」「自然ってすごいな。」と実感しました。

### 6年 木戸 悠一朗 さん

自分たちで植え、自分たちでかりとった稲わらを使って縄ないを初めてやります。「分からなくてもやっていくうちに分かるだろう」と始めました。初めは、「簡単だろう」と考えていましたが、やってみたら、結構難しいものです。なかなかコツがつかめず、できたと思えばほどけ、できたと思えばほどけという状況で、あせるばかりです。周りのみんなはどんどん縄になっていきます。僕のは、どんどんほどけていきます。僕は、あきらめかけました。その時、隣の友達の動きを見てまねしてみました。すると、「できた!」。コツがやっとつかめました。縄はどんどんのびていきます。あっという間に自分のうでを広げたくらいの縄ができ上がり、うれしくてたまりませんでした。

僕は、縄ない体験を通して、新しい発見がありました。それは、昔の人は今では使わないでゴミにしてしまうわらを、うまく工夫し、新しい物に変えて使う。前に社会で習った江戸時代の、少しの資源も大切にしたのと同じだと思いました。

この田植え、稲刈り、そして縄ない。これらの体験で得たものはたくさんあります。田植えと稲刈りでは、米作りの大変さやお米の大切さを実感し、縄ないでは、少しの資源も大切にすることです。

僕は米作り体験で、自然とのつながりを感じられるようになった気がします。



## 「農業体験で学んだこと」

### 越谷市立北陽中学校

### 3年 秋山 歩 さん

正門をくぐると一番に目に飛び込んでくる「稲作体験のできる学校」という大きな看板。私は、北陽中学校に入学して本当にたくさんの作物を育てました。

北陽中学校では、1年生と3年生はもち米を、2年生はさつまいもを地域の農家の方に指導してもらい育てます。1年生の時の稲作体験は、初めての田植えにとっても緊張しました。泥の中に足を入れた時、泥や水が靴下にしみこんでとても冷たかったのを覚えています。歩く時は泥が足について重かったし、足が泥の中に沈んでとても大変でした。

苗を植える時は、5本一束にして縦横等間隔で植えていきました。植えているとだんだん手や足、腰が疲れてきました。一人15カ所くらい植えて田んぼから出ました。みんな泥だらけで、体育着にたくさんの泥がついていましたが、とても楽しんでできました。頑張って植えたので、たくさんおいしいお米を実らせてほしいと思いました。



そして、11月になり収穫作業が終わり、待ちに待ったお米ができました。それを計ってみんなで分けました。家に帰ってから、赤飯やおもちにしておいしくいただきました。自分で植えたお米はお店などで売っているお米よりも、何倍もおいしかったです。

2年生の時はさつまいもの苗植えをしました。1年生の時の稲作でお世話になった方に、また指導をしていただきました。くわで畑を耕してから苗を植えました。一人5本くらい植えることができました。農家の方に植え方が上手いねとほめてもらうことができ、とても嬉しかったことを覚えています。一生懸命植えたので、成長が待ち遠しく、「はやく大きくなってほしいね」と友達と話しながら学校に戻りました。

苗植えをしてから数カ月が経ち、さつまいも畑の草むしりと、つる返しをしに行きました。苗植えをした時よりも、つるや葉がとても大きくなっていて、収穫が楽しみになりました。

そして、収穫時期になり、畑に行ってみると、つる返しをした時よりも更に大きく成長していて、それを見たときとたんにくわくわくしてきました。農家の方に収穫の仕方を教えてもらい、すぐに収穫を始めました。土を掘っていたらさつまいもが顔を出し、傷つけないように丁寧に収穫していきました。大きいさつまいもはクラスの男子と協力して収穫しました。さつまいもは大小ばらばら、形もデコボコでお店で売っているものとは大分違いました。しかし、そのいびつな様子がとても新鮮で、「本当に自分たちが育てたものだ」と実感が湧きました。掘っても掘ってもさつまいもが出てくる予想以上の大量収穫でした。苗植えや草むしり、つる返しは大変だったので、その分、収穫の喜びもひとしおでした。頑張ってよかったなと思いました。

収穫したさつまいもは学校でスイートポテトにしました。自分たちで育てたと思うと特別なものに思えて、みんなで丁寧に調理しました。食べるのがもったいないと思いつつも、甘くておいしいスイートポテトをいただきました。

初めて苗植えから収穫、調理までを全て行って見て、小さなスイートポテトができるまでたくさんの時間がかかり本当に大変でした。しかし、食べている時はみんながにこにこしていて、それを見ていたら何か大きなことをやり遂げたような達成感が湧いてきて、とても充実した気持ちになりました。

3年生は、1年生の時のように稲作体験をします。2年ぶりに田んぼに入った時、すごく懐かしく感じました。田植えの途中、農家の方に「やっぱり3年生は手際がいいね」とほめられました。その一言でみんなやる気になり、どんどん植えていきました。今年は、収穫が済んだらおはぎを作る予定なので、今からとて楽しみです。収穫時期はまだまだ先ですが、今年も2年前のようにおいしいお米ができると思います。

私は3年間の農業体験を通して食べ物の大切さを知ることが出来ました。また農家の方の苦勞を肌で感じ、農業はこんなにも大変な仕事なのだと感じました。そして、食のありがたみについて改めて考えさせられました。農家の方が暑い中作業をして、私たちに安全でおいしい食べ物を作ってくれているのだと思うと、食べ物はもちろん、たくさんの農家の方に感謝をしなければいけないと思いました。そして、食べ物を粗末にはいけないと再度感じました。食べ物は食べる時はあっという間なのに、収穫できるまでは農家の方の長い時間と大変な手間暇がかかります。もし、食べ物を粗末にしている人がいるならば、一度自分で何かを育ててみてほしいです。自分で何かを育てて、それを食べたとき、初めて食べ物のお大切さがわかるような気がします。

私の将来の夢はパティシエです。農家の方と同じで、食べ物を提供して食べ物の良さを伝える職業です。最近、野菜を使ったケーキなどが作られるようになり、この野菜までケーキになるのかと驚くようなものが多いです。

スーパーやパン屋さんなどでも、生産者や産地の表示をよく見かけます。そこで、自分の住んでいる地域や近くの市町村があると、食べる時に意識して少し嬉しくなります。ですから、私の作ったものも「どこで誰が育てた食材なのか」を明確にし、お客さんにそのことを意識しながら食べてもらいたいです。そうすることで、お客さんがお店にも食べ物にも、また、越谷・埼玉県にも愛着をもってくれるのではないかと思います。

でもその前に、食のお大切さを知らない私のような職業に就いても説得力がないので、私自身が食についてしっかりと学び、知識を蓄え伝達できる立場に近づけるよう努力していきたいです。農業体験活動を通して、私たちは大きく成長することができました。

### 3 基調講演「食卓の向こう側～心を育む農と食～」

講師 佐藤 弘 氏（西日本新聞社 編集委員）

#### 本当の食育とは

食育（食農教育）とは何かと問われれば、私は「まっとうな価値観を取り戻すこと」、「まっとうな社会観、世界観を養うこと」と答えます。

ところが今行われている食育は、栄養教育になってい



るんです。食べる前には、作る・獲る→買い物をする→料理するという行為があります。食べた後には嘔む→排泄する→処理する→土に還すという行為があります。そしてまた土で食べものを作る。食はこうした循環の中で考える必要があるのです。そして、これをつなぐ感情、感謝の気持ちが必要です。ひもじさがそれを教えてくれます。物が不足しているアフリカに食育はありません。

単なる栄養教育が食育ではありません。そしてこの食の循環をつなぐのが教育なのです。

## すべてのことが命に繋がる

結局は、すべてのことが命じゃないかと私は思うのです。それをどうアプローチするかが大切です。例えば、女性は出産や妊娠で、目覚める機会があります。しかし、実は、妊娠8週間後には人間の臓器がすでにできあがっているのです。だから、「妊娠したらたばこをやめよう」では遅いのです。妊娠する前からそれを知っていなければ駄目なのです。

私はすべてのことは命につながると思います。それを理解するには、なぜ「食卓の向こう側」なのかということを知っておかなければならないと思うのです。

## 見るべきは向こう側

農薬による被害者は誰でしょうか。一番の被害者は生産者です。消費者は、洗ったものを食べますが、農家の方は直接農薬を浴びるのです。それは、皮膚から入る、口から入る、鼻から入る……消費者が摂取する量の約1万倍とされています。

では、どうして農家は農薬を使わなくてはならないのでしょうか。それは、そうしないと農家が生計を立てられないからです。見た目がきれいな野菜でないと消費者が買ってくれないからです。ということは、現代における農業問題は実は消費者の問題なのです。見栄えが良くて、いつでも手に入る農産物を望む消費者が、農家に農薬を使わせているのです。だから、見るべきはやはり向こう側だと思います。

## 見えないモノをすくい上げて評価して、表現する by 宇根豊

私たちが福岡でやっている連載は、食の安全・安心ではなく、「食卓の向こう側」というものなのです。それを紹介させてください。

(連載第1部)

何の変哲も食卓にはいろんな問題が含まれているのです。食糧自給率だったり、家族の健康だったり、暮らし方だったり、教育だったり……日本は経済大国ですが、本当に幸せでしょうか。

(連載第2部)

輪切りにすると金太郎あめのようにどこでも黄身と白身が均等な長いゆで卵…ピザや、外食・中食の野菜サラダの付け合わせなどに使います。「見栄えのいい」ゆで卵の中央部分だけが欲しい業者のために開発されました。便利だけど、どこか奇妙な「フェイク(もど

き)食品」。

(連載第3部)

連載第3部は給食です。75度で1分間煮沸したトマトを食べたいですか？ある農家が、いいトマトができたから子どもたちに食べさせようと教室に持って行きました。しかし、そのままでは、トマトを食べさせられないのです。必ず、75度で1分間煮沸しないとトマトを食べてもらうことができないのです。

千切りキャベツを流水で3回洗えば、どうなりますか？ O-157 の食中毒事件以来、生野菜はそのままでは子どもたちに食べさせることはできないのです。千切りキャベツは、流水で流すか、次亜塩素酸ソーダに1分浸けないといけないのです。キャベツはビタミンCの塊じゃないですか。「栄養価はどうなっているんですか？」とある調理員に聞いたら、「私たち、栄養のことは忘れました……」。

皆さんわかっています。このままではかいけないと。しかし、実際 O-157 で亡くなる人たちがいる、そういう基準がある……実は給食はジレンマの中にあるのです。だれのための給食か。考えたことがありますか？ しかし、私は給食には未来があると思っています。

(連載第4部)

食に関心があるというあなた、日本の自給率は何%ですか？ 食に関心がある人は多いですが自給率を知らない人が多いです。

田舎の物だからホンモノだ、なんて思っていないですか？ あるところで売られていた頑固ばあちゃんのイラストが描かれた漬物……「どうして？」と思うほど安いのです。原料原産地名を見ると……中国です。

日本の農業はどこにあるか？ 「農」は港にあるのです。日本の食料自給率は40%。ということは6割が輸入ということです。農業は実は港にあるのです。

(連載第5部)

食べ物と心を知っていますか？ その食事でキレル子になるかも知れません。食べ物は栄養だけではないのです。

確かにビタミンB<sub>1</sub>とか、カルシウムが不足するとイライラするという栄養の問題もあります。しかし、食べ物は栄養だけではないのです。誰が作ったかが大切です。母親が作ってくれたおにぎりと、コンビニで買ったおにぎり……栄養価は同じだけど、本当に同じですか？ 片方は賞味期限がきたら捨てられるけれど、片方は捨てられませんね？ この違いは何でしょうか？ つまり脳と心と食べ物は繋がっているということです。

(連載第6部)

テーマは出産。人が「命」に目覚めるとき……それは出産です。出産で人は目覚める。その体を作るのは何か……こういう感じで連載を続けています。

何でそんなに安い価格で物ができるのか。どうして残留農薬は発生するのか。現象そのものはわかりますし、マスコミが洪水のように伝えます。しかし、その裏に何があります

か？

見えないモノをすくい上げて評価して表現する……例えば、農業の価値は食べ物をつくることだけでしょうか？ 農産物価格は海外と比べて高いです。それなら全部輸入すればいいという議論になります。しかし、農業にはそれだけではない価値があります。絶対になくてはならない価値が。だから、そうした見えないモノをすくい上げて評価して表現する…「向こう側を見る目を持たないといけない」と私は思うのです。

### 「田植えを」教えるか、「田植えで」教えるか

なぜ学校ファームか。それは……世の中、どうしてもかなわないものがあることを知るためです。苦労した方が、喜びが大きいことを教えるためです。努力すれば報われることを教えるためです。

作物は言うことをききません。苦労した結果の喜びこそ宝です。買い与えたものと、自分の手で勝ち取ったもの……どちらが貴重か。疑似体験が沢山ある世の中で、本当の喜びは何でしょうか。

学校ではよく田植え学習をやっています。「田植えを」教えるか、「田植えで」教えるか。この2つの違いわかりますか？

子どもたちが、みんなお百姓になるわけじゃないです。田植えを通じて何を学ぶかが重要です。例えば、花芽の分化とか分けつは理科の勉強だし、ヘクタールとかアールは、数学・算数の勉強だし、自給率・流通を考えたら社会の勉強です。そして、日本の文化は稲作に基づいていますから、稲作文化そのものが国語の勉強じゃないですか。そして何より教えるべきは、人々の勤労観ではないでしょうか。昔の人は環境意識などほとんど無かったと思います。だけど、孫子のためには自分さえ作物を取ればいいという考えじゃないのです。だから、50年後、100年後のために木を植えたし、美田を開発できたんです。だから、教えるべきは田植えではなくて、田植えを通じて、人生の生き方を教えることなのです。

## 4 パネルディスカッション

「心の豊かさは多くの気づきから～田畑で見て！ 触って！ 驚いて！～」

コーディネーター 佐藤 弘 氏

パネラー 廣田 美子 氏（埼玉県生活協同組合連合会 常任委員）

小林 町子 氏（JA埼玉県女性組織協議会 フレッシュミズ部会副部長）

奈良 圭造 氏（美里町立東児玉小学校 教諭）

前田 敏之 氏（埼玉県農林部農地活用推進課長）

### 美里町立東児玉小学校の取組み

奈良 本校は、米作りや野菜作りの体験を通して食べ物や命の大切さを理解させることをねらいとして学校ファームに取り組んでいます。

畑では、2年生が生活科でさつまいもを、6年生が理科でじゃがいもを栽培しています。2年生のさつまいもは給食の時に、大学芋として出され、残りは子どもたちが家に持ち帰っ



ています。6年生のじゃがいもは、理科の実験に使うほか、給食のカレーの材料となり、残りは子どもたちが家に持ち帰っています。

田んぼでは、5年生が総合的な学習の時間で、稲を栽培しています。定規を使って、稲の草丈を計測したり、環境教育の一環として、水田と市街地の気温差を調べています。また、生物の学習として、カエル、タニシ、カブトエビなどを観察ノートに記録しています。収穫した餅米は、収穫祭で餅つきをして食べ、残りは、地域の方や職員に販売して、その収益で肥料や米作りに必要な費用を賄いました。

学校ファームで地域の方々に親切に教えていただき、周りの人に親切に出来る子どもが増えたと思います。また、学校、保護者、地域の人たちの共通の話題ができ、相互に理解が深まりました。

学校と家庭と地域が一体となって、学校ファームを進めることによって、地域一体が元気になったと考えております。

## 農業の楽しさ教える

小林 私自身は、サラリーマン家庭に生まれましたが、専業農家に嫁ぎました。私のうちは、嫁ぐ前から25年間くらい、地元の小学校のさつまいもと稲作の農業体験を受け入れております。世間から農業は大変だと言われますけれども、機械に頼れば楽ですし、農業というものは、とても楽しいものだということも子どもたちに教えております。



## 農業体験は親子で！

廣田 生協もJAにご協力いただき、田植えと稲刈りをさせていただいております。親子教室という形で、田植えなども行っており、参加した親は子ども以上に張り切っています。学校ファームで、お子さんが親と一緒に参加するとすごく良いと思います。

## どうやって学校ファームを進めるか

前田 学校ファームの取組は県農林部だけで行っていくのは不可能で、教育関係者の方と連携をしていくということがまず必要であるだろうと考えています。この取り組みを円滑

に進めていくためには、学校任せにしないということが非常に大事だと考えます。奈良先生は地域、家庭、学校と三位一体のお話をされましたけれども、そこに行政を仲間に入れていただき、地域全体が学校を応援していくような、そういうコーディネートを行政がやっていくという合意が関係者の間にできたと思っております。

## 田植え体験はなぜ「手で植える」のか

佐藤 奈良先生、今の子どもを見て気になることはありますか？

奈良 私の学校は県北部の美里町で、周りに農地がありますが、子どもたちは、実際に畑や田んぼに入るといった経験が少ないのではないかと考えています。

佐藤 農村に住んでいるから、農業体験をするというわけではないですよね。

廣田さん、どうして手植えをするんだと思いますか？ 今は機械植えでしょ？ 機械化して近代化されたやり方を教えるべきではないですか？ なぜ手植えなんですか？

廣田 やはり、手植えして苦勞が大きいほど、実ったとき凄く嬉しいじゃないですか。機械化されて便利な部分を教えるのも大事だと思いますが、苦勞して取った食べ物に対する愛おしさというものを教えていくのも大事だと思います。



佐藤 奈良先生、子どもが書く作文にもそういう体験の大切さは表れていますよね。

奈良 そうですね。「おじいちゃんやおばあちゃんが田植えをしているのは簡単そうに見えたけれど、実際に手で植えてみたら疲れて大変だった。でも、終わりの方になったら、コツが分かってき上手く植えられるようになってきた」という作文がありました。自分で実際にやって、大変さを味わうと、出来た野菜やお米を食べた時に、作られるまでの苦勞が分かると思います。そういう意味で手植えをしています。

佐藤 手植えじゃないと分からないことがあるからですよね。だから、機械植えではなくて、手植えにしなくてはならない。手植えによって子どもたちが多くのことに気づくわけです。奈良先生は、子どもたちにどんな子どもになってほしいと思いますか？

奈良 優しい子ども、物を大切にするという子どもになってほしいと思います。実際に野菜などを作ったりすると、生き物や命を大切にすると子どもになると考えています。体験してみると、農家の苦勞が分かり、食べものを大切にすると子どもになると思います。

佐藤 逆に言うと、体験しないと分からないということですよね。一方で、先生のそのような思いがあったとしても、小林さん、受け入れ側の農家は大変ですよね。

小林 確かに、本業があるので、大変な面はあります。でも、子どもたちの将来を考えて続けています。あるところでJA女性部の方が味噌汁を作った時に、初めて味噌汁を飲んで

だという小学生に会いました。この子がここで味噌汁に出会わずに親になったら、この子の子どもはどういう子になるのだろうかと考えました。私は子どもが好きですから、「私に出来ることがあれば」ということで、農業体験という形で許す限り協力していきたいと思い、受け入れを続けております。

### 学校と先生の役割は？

佐藤 今は学校の役割がさらに大きくなっているような気がします。昔、学校は勉強を教える所だったんですね。躾や食育は家でやることでした。

ところが、今はどうしてそれを学校でやらなければならないのか？ 奈良先生のやっていることは教育の枠を踏み越えていませんか？

奈良 そうは言っても、総合的な内容を教える時間があり、勉強だけではなくて、心や考え方などを教えることがあります。家庭で何かあると、子どもが朝イライラすることがあります。朝ご飯を食べさせてくれている家庭の子どもは、生活が落ち着いていますが、朝ご飯を食べない子はちょっとしたことで怒ったりする傾向があると個人的に思っています。そういう面で農業体験はいいと思います。先生方も大変だと思いますが、「少しやってみようかな」という気持ちも大事だと思っています。

佐藤 先生方は、核になれるポジションだと思います。だから、先生と言うのは教壇に立つ人だけでも、その向こう側に親がいて、地域があるので、私は色んな可能性を秘めた職業ではないかなと思うんです。

### 最後に

前田 学校ファームの取り組みですけれど、感動を共有するということが突破口になるような気がしています。埼玉県はこれだけ都市化が進んでいる中であっても、農地が大変身近にあります。また、各地域の方、農家の方々を始めとして、大変親切です。ぜひ地域の方々に声を掛けていただいて、関係者が感動を共有出来れば良いと思っています。

廣田 学校ファームというのは、知識だけじゃなく、実体験が出来るということが大きいと思っています。しかし、先生やPTAの役員さんだけに負担がかかる形ではなく、地域を巻き込む形でできたらいいと思います。農家さんやリタイヤした団塊の世代の方、当日だけなら出られるという親御さんもいらっしゃると思いますので、広くお声掛けしながら、一緒にやっていければと思っています。

小林 「こういうことがやりたいんだけど」とか、「どうしたら良いだろう」と学校から相談してもらえれば、私たち農家の方も「こういうことだったら出来る」ということが答えられると思うのです。協力したいことがたくさんありますが、今の教育の現場は大変忙しいと聞いておりますので、ぜひ学校の方から直接農家や、近くのJAなどに相談していただきたいと思っています。不安に思っていることや心配事などを、行政や農家にどんどん聞いてきていただいて、皆で将来豊かな子どもたちに育てていきたいと思っています。

奈良 今の子どもたちを見ていると、自分が野菜を作るとかそういう機会が少ないと思いますので、そういう体験の場を作ってあげたいと思います。本校は、米作りをやって9年目になりますけれども、やりながらノウハウが出来ていくのだと思います。ですから、最初は大変かもしれませんが、地域の協力を得ながら学校ファームを続けていければ良いと思います。

### **作る人の気持ちが分かった子どもが食べ物に文句を言うんでしょうか？**

佐藤 ごはんを食べ残す子ども、不平不満ばかり言う子ども、とにかく文句ばかり言う子ども……さて、どうするか？ そこで登場したのが「弁当の日」。これは、香川県の滝宮小学校から始まりました。親が作るのではなくて、子どもが作る「弁当の日」なのです。つまり親は手出しをしないということです。5年生の1学期に家庭科で料理を学びますから、その後に弁当会をやるといった取り組みです。この小学校の子どもたちが作る卵焼きに海苔が入っているんです。最初は、皆普通の卵焼きを作ってくるんだけれども、海苔を誰か入れてくると、「おお、すげえ」って、なるのです。つまり、弁当作りをする子ども達の中では、出来ることが格好良いんです。まっとうな価値観じゃないですか。お米の作り方知ってる。田植えの仕方知ってる。それが格好良いじゃないですか。

これは、「弁当の日」を推進している滝宮小学校の校長先生が卒業生に贈ったメッセージです。読んでみてください。

**「あなたたちは、お弁当の日を2年間経験した最初の卒業生です。だから、「親は決して手伝わないで下さい」で始めた「弁当の日」でしたが、どうでしたか？**

**食事を作ることの大変さが分かり、家族を有り難く思った人は優しい人です。**

**手順良くできた人は、給料を貰える仕事についてときにも、仕事の段取りのいい人です。**

**食材が揃わなかったり、調理を失敗したりしたときに献立の変更ができた人は、工夫できる人です。**

**友だちや家族の調理のようすを見て、技をひとつでも盗めた人は自ら学ぶ人です。**

**こまやかな味の違いに調味料や隠し味を見抜いた人は、自分の感性を磨ける人です。**

**旬の野菜や魚の色彩、香り、食感、味わいを楽しめた人は、心豊かな人です。**

**一粒の米、一個の白菜、一本の大根の中にも「命」を感じた人は、思いやりのある人です。**

**スーパーの棚に並んだ食材の値段や賞味期限や原材料や産地を確認できた人は、賢い人です。**

**食材が弁当箱に収まるまでの道のりに、たくさんの働く人を思い描けた人は、想像力のある人です。**

自分の弁当を「おいしい」と感じ、うれしいと思った人は、幸せな人生が送れる人です。

しゃけの切り身に、生きていた姿を想像して、「ごめん」が言えた人は、情け深い人です。

登下校の道すがら稲や野菜が育っていくのを嬉しく感じた人は慈しむ心がある人です。

「あるもので作る」「できたものを食べる」ことができた人は、逞しい人です。

「弁当の日」で仲間がふえた人、友達を見直した人は、人と共に生きていける人です。

調理をしながら、トレイやパックのゴミの多さに驚いた人は、社会を良くしていける人です。

中国野菜の値段の安さを不思議に思った人は、世界を良くしていける人です。

自分が作った料理を喜んで食べる家族を見るのが好きな人は、人に好かれる人です。

家族が手伝ってくれそうになるのを断れた人は、独り立ちしていく力のある人です。

「いただきます」「ごちそうさま」が言えた人は、感謝の気持ちを忘れない人です。

家族が揃って食事をすることを楽しいと感じた人は、家族の愛に包まれた人です。

滝宮小学校の先生達は、こんな人達に成長して欲しくて2年間取り組んできました。

おめでとう。これであなたたちは弁当の日を立派に卒業出来ました。」

作る人の気持ちが分かった子どもが、食べ物に文句を言うのでしょうか？ 向こう側が見えた子どもが、物を簡単に捨てるのでしょうか？ 体験のない食育は意味がないと思います。体験して初めて分かるんじゃないですか？ 今、最も欠けているのは、体験じゃないのでしょうか？ 児童数 300 人の滝宮小学校の給食の残りは、鍋の底にこびりついている分だけです。多分、先生方の声掛けもちゃんとしていると思います。しかし、子どもたちが食べ物は自分の体を作るということ、食べ物の向こう側に栄養士さん、調理員さん、畑で働く人、漁師、そういうものが見えるからこのようになるのではないかなと思います。今、全国 500 校で弁当の日に取り組んでいますが、例外なく残食が減ります。このような感じで体験し、「いかに自分の問題にするか」ということがポイントではないのでしょうか。

「医は食に、食は農に、農は自然に学べ」。食べ物そのもの、食習慣を正さなければ、病気は治らない。良い食は農業から生まれる。農業は自然・環境から生まれる。医療問題・食の問題・環境問題は繋がっています。これらは一緒に考えなければならないですし、これらを繋ぐのは教育なのです。

(敬称略)

# IV JAグループさいたまの取組

## 1 「みどりの学校ファーム」に関するJAグループさいたまの取組

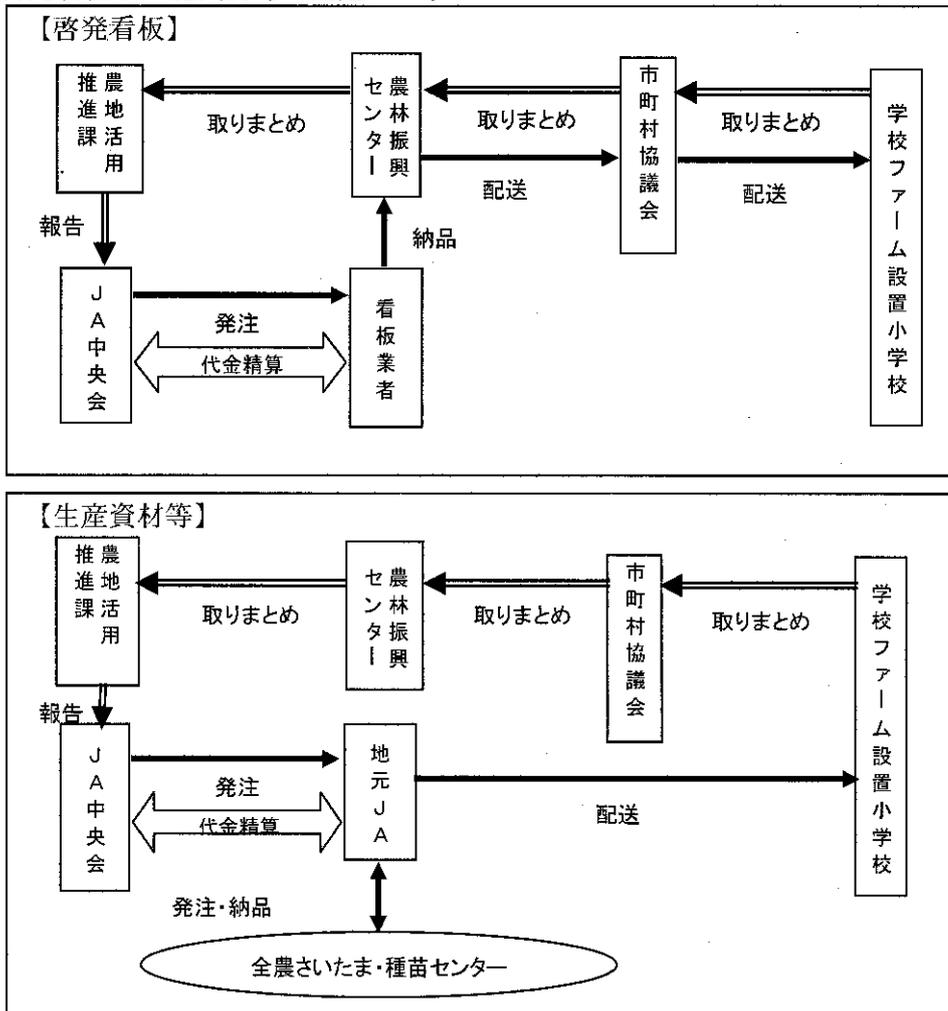
JAグループさいたまは、平成20年10月30日に上田清司埼玉県知事と江原正視JA中央会会長との間で食農教育や学校ファームに関する相互連携の協定書を締結し、事業に取り組んでいます。

主な取り組みは、県内の小学校を対象に ①農業体験に必要な鎌やじょうろ、肥料、種苗などの生産資材や啓発看板などの提供 ②各学校が主体となって作業・管理する農園へのJA職員の指導・助言です。さらに、JA埼玉県女性組織協議会は平成21年度に県から広域サポーターとしての委嘱を受け、小学校からの要望があれば料理実習の指導を行う出前授業などにも取り組んでいます。

平成21年度の実産資材や啓発看板の提供は、地元JAやJA全農さいたま、(社)埼玉県農林公社(種苗センター)と協力し、新たに学校ファームを設置した小学校90校へ実施しました。

この他に、子どもたちや先生・サポータークラブの方々が学校ファームをより一層楽しんで学習していただくためのガイドブックとして「夢をはぐくむ学校ファーム」を3,000部作成し県内の全小・中学校へ配布しました。

### ○ 啓発看板や生産資材等の配送ルート



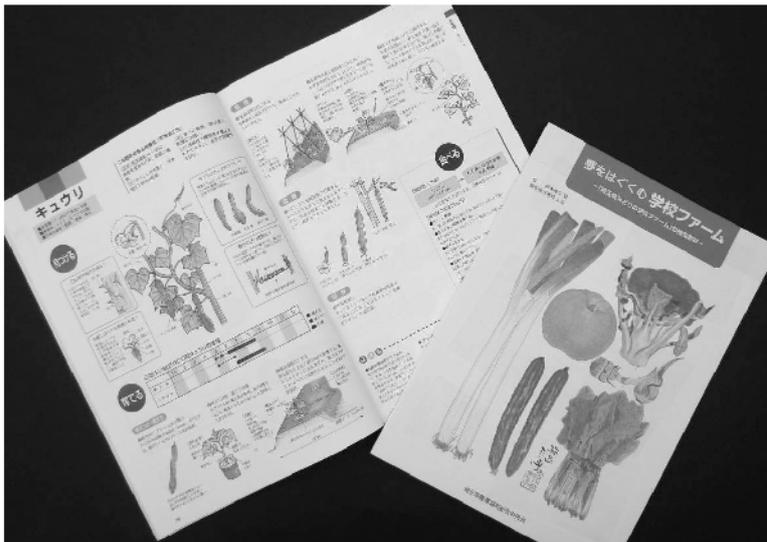
○ 提供資材一覧

(※22年度の品目は検討中)

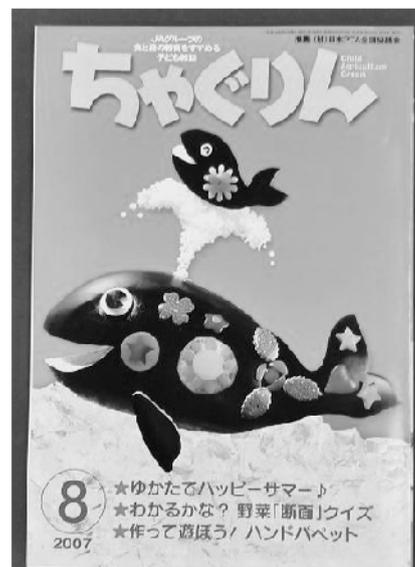
平成21年度新たに学校ファームを設置した小学校へは、下記の品目の中から5万円を限度として希望する品目・数量を自由に選択してもらい、地元JAを通じて提供しています。

生産資材		種		苗
平鍬	ポリポット	トウモロコシ	ニンジン	キュウリ
丸形スコップ	穴あき黒マルチ	ダイコン	カブ	ナス
上ふるい	支柱	エダマメ	ジャガイモ(男爵)	トマト
移植コテ	野菜用ネット	コマツナ	#(メークイン)	ミニトマト
じょうろ	雨よけハウス	ホウレンソウ	#(キタアカリ)	ピーマン
バケツ	軍手	オクラ		ゴーヤ
シュロ縄	化成肥料(野菜用)	ツルムラサキ		サツマイモ
鎌(草刈り用)	#(稲用)	ラッカセイ		ブロッコリー
#(稲刈り用)	堆肥	ネギ		キャベツ
収穫ばさみ		タマネギ		ハクサイ
プラグトレイ		ミズナ		稲苗(彩のかがやき)

▼ 指導者向けガイドブック「夢をはぐくむ学校ファーム」



▼ みどりの学校ファームの取組に役立つ情報満載の子ども雑誌「ちゃぐりん」。参考資料として御活用ください。



## 2 JA女性組織の取組

### JAの女性組織

各地域の農家の女性たちが組織するグループで、食農に関する様々な活動を行っています。地域によって「JA〇〇女性部」などの名称となっています。

### (事例1) 生産者と学校ファーム設置校との連携による体験農業学習

- 事業主体 鴻巣市の生産者／小林洋一・町子さん夫妻、鴻巣市立小谷小学校  
対象者 1～4年生（サツマイモ）、5～6年生（稲作）  
取組内容 サツマイモ栽培体験（5a）／6月植付、8月つる返し、10月収穫  
アイガモ農法による稲作体験（10a）／6月田植、8月草取・観察、  
10月稲刈り、11月収穫祭  
成 果 学校への田畑の提供は20年以上続いている。  
子どもたちが、よく挨拶をしてくれるようになった。アイガモ農法では、稲作とともにカモの処分までを知ることによって命の尊さを考えるようになった。農業機械の仕組みを知ることによって、農業への関心が深まった。



▲小林さんの手ほどきで稲を束ねる



▲コンバインの仕組みを学ぶ子どもたち

### (事例2) JAくまがや女性部による出前授業「ちゃぐりんフェスタ」

- 事業主体 JAくまがや、JAくまがや女性部  
対象者 熊谷市立妻沼小学校をはじめ同市内3校の児童を対象に実施  
取組内容 児童が育てた米「キヌヒカリ」での「アンパンマン風太巻き寿司づくり」、  
地元産小麦「農林61号」で全校児童500人分の「すいとんづくり」、  
サツマイモの植付から収穫、調理までのフルコースにチャレンジ、お米や地元野菜のクイズなどの活動を展開。  
成 果 感謝の気持ちが込められた児童からの感想文に部員も感激した。  
作ることの大変さ、旬の農産物のおいしさなどが伝えられた。児童の嬉しそうな笑顔と会えることが活動の励みとなっている。



▲サツマイモ苗の植え方を指導するJA職員と女性部員（熊谷市立妻沼小学校）



▲収穫したサツマイモ入りのカレーに舌鼓を打つ女性部員（熊谷市立妻沼小学校）

### (事例3) JA埼玉中央女性部による食農教育出前講座

事業主体 J A埼玉中央女性部  
対象者 J A埼玉中央管内の小学校、幼稚園、子ども会等の親子  
取組内容 21年度は小学校10校、幼稚園2園、子ども会等4ヶ所で延べ145人の女性部員が出前授業を実施。献立はアンパンマン花寿司、豆腐、おから汁、米粉ピザ、米粉おやつなど多数。カリキュラムは学校ファームや地域内の農産物を使った親子料理教室や野菜ウルトラ〇×クイズなど。  
成果 年々実施を希望する学校が増えている。地域の女性部員と親子、先生方との信頼関係も深まり、女性部活動が活発になっている。



▲親子花寿司づくり体験(鳩山町立亀井小学校)



▲児童手作りのアンパンマン寿司(滑川町立福田小学校)

### (事例4) JA埼玉県女性協フレッシュミズ部会による親子体験農園

事業主体 J A埼玉県女性組織協議会フレッシュミズ部会  
対象者 会員及び一般消費者の親子 124名  
取組内容 (株)むさしの村わくわくファームを会場に会員の交流、農業への理解を目的に親子で農産物(トウモロコシ)の定植から収穫、加工品づくり(ブルーベリージャム)までを体験、食農教育講座(食農エプロンシアター)などを開催。  
成果 農作物を栽培することの大変さを実感するとともに、地産地消やJ Aの取り組みについて理解が深まった。



▲エプロンシアターで食農教育



▲会員で育てたトウモロコシ狩り

## V みどりの学校ファームを支援する広域サポーター

### 広域サポーターとは

学校ファームの取組の趣旨に賛同し、県内全域を対象として広域的に学校ファームの取組を支援する団体等で、広域サポーターとして知事が委嘱した皆様です。

#### 埼玉県地域指導農家協会

##### <組織紹介>

新しく農業に就く若者を育成するため、各地域で指導的な役割を果たしている農家で構成されています。

約200人の地域指導農家が、新規就農者の研修受入を通じて営農の指導や経営のアドバイスなどを行っています。

##### <学校ファームへの可能な支援内容>

- ・栽培技術に関するアドバイス
- ・学校ファームの取組について、関係者への周知

##### <連絡先>

- ・農林部農業支援課 〒330-9301 さいたま市浦和区高砂3丁目15-1  
TEL 048-830-4833

#### 埼玉県消費者団体連絡会

##### <組織紹介>

7団体（埼玉県地域婦人連合会、コーペル、新日本婦人の会埼玉県本部、埼玉県生活協同組合連合会、埼玉公団自治会協議会、埼玉母親大会連絡会、埼玉県生協ネットワーク協議会）で構成される消費者の団体

埼玉県における消費者運動の発展を目的に地域に根ざした様々な活動を行っています。

##### <学校ファームへの可能な支援内容>

- ・食の安全や食育に関する取組に対するアドバイス
- ・会員に対して、近隣学校の取組への支援を働きかける

##### <連絡先>

- ・埼玉県消費者団体連絡会事務局 〒330-0064 さいたま市浦和区岸町7-11-5  
TEL 048-844-8971

## J A埼玉県女性組織協議会

### <組織紹介>

健全な食と農を次代に引き継ぐことを目的に活動しているJ Aの女性組織  
会員数は約1万4千人で、会員相互が協力して農業・農村を元気にする取組を展開している。

### <学校ファームへの可能な支援内容>

- ・食農教育に関するアドバイス
- ・地元農産物を活用した調理指導
- ・「弁当の日」による食育の推進

### <連絡先>

- ・J A埼玉県中央会地域振興部福祉対策室 〒330-0063 さいたま市浦和区高砂 3-12-9  
TEL 048-829-3023

## イオンリテール株式会社

### <組織紹介>

お客様の豊かで健康的な食生活を実現したいという願いから、企業の社会貢献事業の一環として食育活動を積極的に推進しています。

また、子供たちが、作物を育てる体験を通して、自然の恩恵や「食」にかかわる人々の活動に興味を持てるよう、ふれあい収穫体験を実施しています。

### <学校ファームへの可能な支援内容>

#### ・食育体験学習会の実施

対象小学生 人数1回60名程度まで 場所イオンリテール、ジャスコの店舗

時間約90分(要相談) 費用無料

内容①食事バランスガイドのお話 ②買い物ゲーム ③食べ物の旅  
④簡単 地場野菜クッキング

#### ・食育出前授業

対象小学生 人数1回20~30人 場所小学校 時間45~60分(要相談) 費用無料

内容(例)

①食事バランスガイドを楽しむ ②野菜を知ろう!現場のプロの地産地消の話  
③野菜クッキング

#### ・食育に関する情報発信

#### ・学校ファームの取組についてのPR

### <連絡先>

- ・イオンリテール(株)

①食育体験学習会・出前授業 食品・デリカ商品本部 食育担当 TEL 043-212-6191

②ふれあい収穫体験 環境社会貢献・お客様サービスグループ TEL 03-3296-7813

## 社団法人日本種苗協会埼玉支部

### <組織概要>

「食べ物の生産」に焦点をあてた「食育」を推進しています。タネ播きから収穫までの一連の栽培体験を通して、生命を育むことの大変さと喜びを学び、食べ物に対する感謝の心を醸成することを目指しています。

また、教材として、その地方に残る伝統野菜に着目し、地域の食文化伝承にも貢献しています。

### <学校ファームへの可能な支援内容>

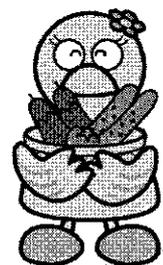
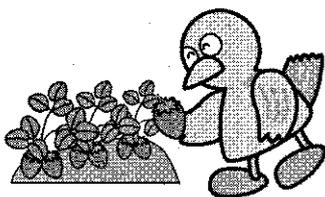
- ・ 地方伝統野菜の栽培・調理体験学習に関するサポート
- ・ 栽培品目選定や必要資材等のアドバイス

### <連絡先>

・クボタ種苗園	〒330-0071	さいたま市浦和区上木崎 6-34-3	TEL 048-831-5916
・武藤種苗園	〒330-0075	さいたま市浦和区針ヶ谷 1-10-1	TEL 048-833-6405
・(有)しまむら種苗	〒336-0932	さいたま市緑区中尾 327	TEL 048-873-5473
・石井商会	〒330-0042	さいたま市浦和区木崎 1-1-5	TEL 048-886-3328
・宮野種苗店	〒339-0034	さいたま市岩槻区笹久保 1838	TEL 048-798-0212
・(有)長島種苗店	〒337-0053	さいたま市見沼区大和田町 1-789-2	TEL 048-683-3459
・トキタ種苗(株)	〒337-8532	さいたま市見沼区中川 1069	TEL 048-683-3434
・川崎農園	〒331-0823	さいたま市北区日進町 3-235	TEL 048-663-2510
・(有)大黒屋種苗店	〒365-0038	鴻巣市本町 5-5-8	TEL 048-541-0303
・小林種苗園	〒340-0016	草加市中央 1-1-16	TEL 048-922-2917
・種茂商店	〒335-0005	蕨市錦町 5-13-44	TEL 048-441-4631
・(有)タネの大川	〒353-0004	志木市本町 3-5-32	TEL 048-471-2292
・小寺種苗園	〒353-0004	志木市本町 6-21-3	TEL 048-471-1658
・毛束種苗店	〒352-0004	新座市大和田 1-1-29	TEL 048-477-2173
・ヒグレ種苗園	〒352-0011	新座市野火止 5-7-25	TEL 048-477-2111
・(有)清水種苗店	〒363-0011	桶川市北 1-1-14	TEL 048-771-1449
・アラキ育種場	〒364-0006	北本市北本 1-83	TEL 048-591-4433
・ヤマト種苗店	〒350-1155	川越市下赤坂 35-1	TEL 049-244-0334

・松岡種苗店	〒350-0063	川越市幸町 8-4	TEL 049-222-0082
・渡辺種苗(株)	〒359-1121	所沢市元町 25-15	TEL 042-922-2448
・野口種苗研究所	〒357-0038	飯能市仲町 8-16	TEL 0429-72-2478
・大神種苗店	〒357-0034	飯能市東町 7-4	TEL 0429-72-2431
・(有)まつやま種苗	〒355-0072	東松山市石橋 1451-3	TEL 0493-23-7178
・種仲種苗(株)	〒350-1305	狭山市入間川 3-2-20	TEL 042-952-2013
・安野種苗店	〒350-0225	坂戸市日の出町 13-18	TEL 049-281-0200
・船木種苗店	〒350-2204	鶴ヶ島市鶴ヶ丘 106-3	TEL 049-285-2272
・(有)種七農芸園	〒356-0041	ふじみ野市鶴ヶ舞 3-3-19	TEL 049-261-1504
・山田採種場	〒354-0041	入間郡三芳町藤久保 747-2	TEL 049-258-3649
・(株)ときわ研究場	〒355-0167	比企郡吉見町田甲 1085	TEL 0493-54-1155
・藤屋嘉兵衛種苗店	〒360-0037	熊谷市筑波 1-145	TEL 048-521-0968
・丸角種苗店	〒360-0815	熊谷市本石 1-345	TEL 048-522-1742
・上原種苗店	〒360-0042	熊谷市本町 1-196	TEL 048-522-1747
・カネコ種苗(株)熊谷支店	〒360-0024	熊谷市問屋町 1-3-11	TEL 048-523-5588
・(株)モリタネ	〒360-0201	熊谷市妻沼 597	TEL 048-588-3540
・(有)小室商店	〒368-0032	秩父市熊木町 7-8	TEL 0494-22-1089
・野口農園	〒367-0044	本庄市見福 1-1-25	TEL 0495-24-5594
・(株)マルカクのタネ	〒366-0026	深谷市稻荷町 1-20-9	TEL 048-571-0077
・(有)埼玉種苗	〒366-0832	深谷市高畑 532	TEL 048-571-1431
・埼玉北園芸	〒366-0019	深谷市新戒 459-1	TEL 048-587-4451
・(有)金子種苗	〒366-0825	深谷市深谷町 5-7	TEL 048-571-1293
・(合)清水屋種苗店	〒366-0822	深谷市仲町 4-16	TEL 048-571-0143
・飯島種苗店	〒366-0015	深谷市蓮沼 462	TEL 048-571-3906
・(有)タネの黒沢	〒369-0201	深谷市岡 2829-8	TEL 048-585-0866

・ (有) クリハラガーデン	〒369-1244	深谷市黒田 866	TEL 048-584-4197
・ (株) 小池勝次郎商店	〒369-1108	深谷市田中 778-1	TEL 048-583-2017
・ (株) 深町	〒366-0001	深谷市中瀬 810-1	TEL 048-587-1000
・ (株) 大島種苗	〒367-0245	児玉郡神川町植竹 1357	TEL 0495-77-2191
・ (有) 寄居種苗	〒369-1202	大里郡寄居町桜沢 968-1	TEL 048-581-1007
・ 中川農園	〒369-1305	秩父郡長瀬町上長瀬 1406	TEL 0494-66-0200
・ 一二三屋種苗店	〒368-0100	秩父郡小鹿野町原町 974	TEL 0494-75-0333
・ 大黒屋種苗店	〒361-0073	行田市行田 11-30	TEL 048-555-2461
・ 田村種苗園	〒347-0033	加須市下高柳 2028-1	TEL 0480-62-1371
・ 杉田種苗店	〒347-0006	加須市上三俣 726-1	TEL 0480-61-3036
・ 野本種苗店	〒347-0003	加須市上桶遺川 5110	TEL 0480-68-5185
・ 時田園芸(株)	〒344-0061	春日部市粕壁 3-5-38	TEL 048-752-3156
・ 渡辺農芸(株)	〒344-0115	春日部市西金野井 766-1	TEL 048-746-7001
・ (有) 東宝種苗店	〒348-0052	羽生市東 3-1-30	TEL 048-561-8892
・ (有) 中野屋種苗店	〒343-0813	越谷市越谷 2-9-2	TEL 048-962-2930
・ 野原種苗(株)	〒346-0002	久喜市野久喜 1-1	TEL 0480-21-0002
・ 報国園採種場	〒341-0058	三郷市彦江 1-3	TEL 048-952-1358
・ 蓮田園芸センター	〒349-0104	蓮田市緑町 3-3-8	TEL 048-768-4555
・ (有) 中野種苗店	〒342-0055	吉川市吉川 1-8-1	TEL 048-982-0325
・ (株) 埼玉原種育成会	〒346-0105	久喜市菖蒲町新堀 2616	TEL 0480-85-0854
・ 坂巻種苗店	〒349-1101	久喜市栗橋北 2-7-12	TEL 0480-52-0362



## 埼玉西武ライオンズ

### <組織概要>

青少年の健全育成に寄与する活動の一環として、「ライオンズファーム」を実施しています。この取組は、農業体験を通じて親子コミュニケーションを図り、農作物の生育過程に触れることで、食べ物の大切さや自然環境、生命、食物などに対する理解を深めることを目的としています。

平成21年度は、狭山市において、農業後継者の団体である「狭山市4Hクラブ」の協力を得て、『さといもの栽培』、深谷市においては、「JAふかや」の協力を得て『深谷ねぎの栽培』に取り組みました。

### <学校ファームへの可能な支援内容>

- ・学校ファームの取組のPR支援  
広報媒体等を使用した応援コメントの掲示  
ポスター掲示やPRチラシ等の配布協力等

### <連絡先>

- ・農林部農地活用推進課 TEL 048-830-4097

## 社団法人日本青年会議所関東地区埼玉ブロック協議会

### <組織概要>

(社)日本青年会議所関東地区埼玉ブロック協議会は、1500名を超える会員を擁し、会員同士が共に切磋琢磨し、社会に貢献しようという理念のもと、各地域においてボランティアや社会課題の解決に積極的に取り組んでいます。

少子高齢化が進む中で、親や子ども、そして若者達と協働しながら誇りのもてる日本人を育成すること、これからの世代を担う子ども達の生きる力を創造することなどにも力を注いでいます。

### <学校ファームへの可能な支援内容>

- ・学校ファームの取組について、会員に周知
- ・会員に対して、近隣学校の取組への支援を働きかける

### <連絡先>

(社)日本青年会議所関東地区埼玉ブロック協議会 副会長 内田達浩  
住所 羽生市中央3-7-5 市民プラザB1階 埼玉ブロック事務局  
TEL 090-8018-0751  
E-mail enajy-nihonn@mopera.net

## 学校法人服部学園 服部栄養専門学校

### <組織概要>

学校のカリキュラムに農業体験を位置付けています。

平成18年から、埼玉県と連携し、専門学校生が県の試験研究機関等での講座に参加するほか、実際に県内の農家で農作業体験を行っています。

平成20年10月には、県と相互連携協定を締結し、互いに協力して「食育」の一層推進や、埼玉農業・農産物の情報発信に努めています。

### <学校ファームへの可能な支援内容>

- ・学校ファームの取組についてPR

### <連絡先>

- ・農林部農地活用推進課 TEL 048-830-4097



## VI 参考資料

### 出張講義可能な制度等の紹介

学校ファームに取り組むうえで参考となる情報を掲載しました。  
費用をかけずに出張講義を受けられる制度もありますので、ぜひ活用してみてください。

#### 1 環境教育アシスタント制度

##### (1) 環境教育アシスタント制度とは

この制度は、学校などからの申請により「環境教育アシスタント」を派遣して、総合的な学習の時間などに活用していただくためのものです。

地球の未来を担う子どもたちが環境学習に関心を持ち、環境を守るために行動・実践できるようになることを目的としています。

環境教育アシスタントの派遣にかかる費用は、県が負担します。

##### (2) 派遣対象

県内の小学校・中学校・高等学校・こどもエコクラブ活動などの団体

##### (3) 環境教育アシスタントを活用しての学校ファームでの環境学習例

###### ア 自然環境、生物多様性

田んぼや畑にいる虫や植物を調べ、生き物のつながりや、土や水の大切さ、自然と人との関係などについて考える。

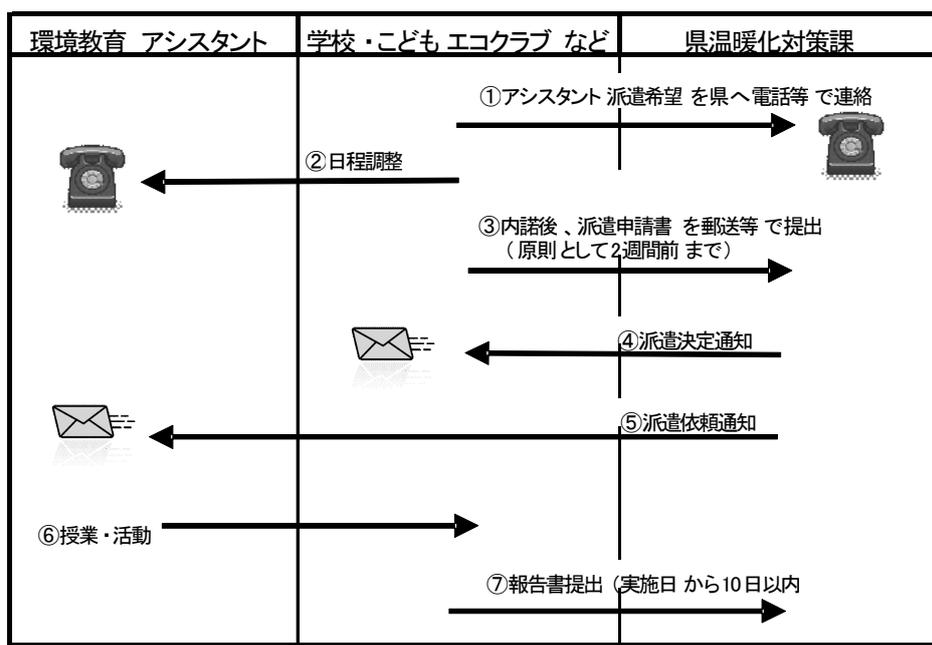
###### イ ヒートアイランド現象

農地の温度と舗装道路の温度を調べ、温度が違うのはなぜかを考える。

###### ウ 地球温暖化

地球温暖化の原因や、地産地消が温暖化防止につながるることについて考える。

##### (4) 事務手続の流れ



申込先：県環境部温暖化対策課

電話 048-830-3033

## 2 食育ボランティア

### (1) 食育ボランティアとは

伝承料理を作る技術、作物を育てる技術、栄養の知識など、食に関する様々な専門技術や知識を持つ方々に「食育ボランティア」として登録していただき、学校や地域の要請により食育活動に取り組んでいただくものです。

### (2) 食育ボランティアの登録分野と活動

さいたま食育ボランティアが学校教育や地域活動の場で、栄養管理や農業経験などのお話、郷土料理や農業体験の支援を行います。

登録分野は5分野に分かれており、各分野の活動内容は概ね次のとおりとなっています。

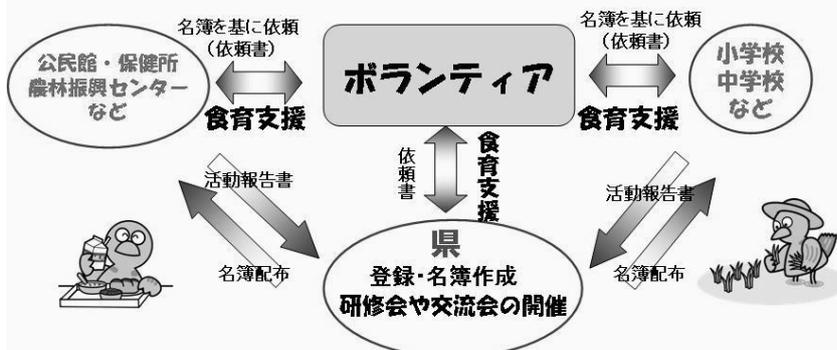
登録分野	活動内容
食文化・食生活分野	埼玉の食文化の開設、食生活改善、スローフード、家庭料理屋伝統料理等の講義・実習・指導など
食品(流通・加工・製造)分野	市場等の見学受け入れ、流通についての解説、加工の体験、食品の品質・衛生管理、店舗や工場見学受け入れなど
農業等生産分野	稲や野菜等の栽培指導・体験実習・施設やほ場見学の受け入れ、生産者の苦労話、地域(埼玉・日本)農業の解説など
健康管理・栄養分野	食品の栄養成分やその摂取方法、食と健康づくりについての講習など
その他食に関する分野	食品の品質や安全性に関する法制度(JAS法や食品衛生法等による表示)等の解説など

#### <依頼するにあたって>

・市町村や公立学校等に配布されている「さいたま食育ボランティア名簿」に掲載されているボランティアと連絡をとり、「食育ボランティア活動依頼書」により活動を依頼してください。

・食育ボランティアの派遣は無料ですが、教材費、交通費等については、活動に必要な経費となりますので、御配慮願います。

#### 食育ボランティアの活動体制



問い合わせ 埼玉県農林部経済流通課  
電話 048-830-4106

### 3 彩の国 うらわコンポスト

#### (1) 埼玉に未来が見えるリサイクル（さいたま緑のリサイクル推進事業）

埼玉県では、廃棄物を限りなくゼロに近づけることを目指した、「ゼロ・エミッション型社会づくり」の一施策として、今まで焼却処分をしていた道路、河川などから発生する剪定枝や刈草などの植物発生材を「チップ化」や「堆肥化」によって有用な資源として再利用する、「さいたま緑のリサイクル推進事業」に取り組んでいます。

これにより製造された堆肥は、「彩の国うらわコンポスト」として、営利を目的としない団体利用者などに無料で差し上げています。

この堆肥は、リサイクルのため安全かつ自然にやさしく、肥料としてはもちろん、土壌改良材としても優れた効果を発揮します。

#### (2) 配布方法

＜対象者＞ 営利目的としない(公共的な)利用者

例えば  
公園の花壇、道路の植樹帯の管理に使いたい。  
学校の花壇に使いたい。

＜配布量＞ 必要量(日時・方法等について調整します。)

＜手続＞ 申込書(下記ホームページを参照)をFAXして下さい。

<http://www.pref.saitama.lg.jp/A08/BA01/konnposuto-new.html>

＜配布場所＞ 鴨川排水機場内堆肥化プラント

#### お問い合わせ・申し込み先

さいたま県土整備事務所 道路環境担当 TEL 048-861-2495 FAX 048-866-9713



## 栽培方法や管理技術等についての相談窓口

学校ファームについて分からないことがあったら、下記の相談窓口にお気軽に相談してください。

栽培方法については、県農林振興センター（農業支援部）が、資材等の調達についてはJAや広域サポーターである(社)日本種苗協会埼玉支部の会員（58P）がよいでしょう。

また、学校ファームの取組全体に係る相談は、県庁農林部（農地活用推進課）や教育局（家庭地域連携課）でも受けています。

区分	相談窓口	郵便番号	住所	電話番号
本庁	埼玉県農林部農地活用推進課	330-9301	さいたま市浦和区高砂3-15-1	048-830-4097
	埼玉県教育局市町村支援部 家庭地域連携課	330-9301	さいたま市浦和区高砂3-15-1	048-830-6976
地域機関	さいたま農林振興センター(農業支援部)	330-0074	さいたま市浦和区北浦和5-6-	048-822-1007
	川越農林振興センター(農業支援部)	350-1124	川越市新宿町1-1-1	049-242-1810
	東松山農林振興センター(農業支援部)	355-0024	東松山六軒町5-1	0493-23-8582
	秩父農林振興センター(農業支援部)	368-0034	秩父市日野田町1-1-44	0494-25-1230
	本庄農林振興センター(農業支援部)	367-0026	本庄市朝日町1-4-6	0495-22-3116
	大里農林振興センター(管理部)	360-0831	熊谷市久保島1373-1	048-526-2812
	加須農林振興センター(農業支援部)	347-0054	加須市不動岡564-1	0480-61-3404
	春日部農林振興センター(農業支援部)	344-0038	春日部市大沼1-76	048-737-6311
	埼玉県農業大学校	350-2214	鶴ヶ島市太田ヶ谷64	049-285-4111

区分	相談窓口	郵便番号	住所	電話番号
農業団体	JA埼玉県中央会地域振興部	333-0063	さいたま市浦和区高砂3-12-9	048-829-3023
	JAさいたま(営農指導課)	330-0072	さいたま市浦和区領家4-24-16	048-831-2400
	JA戸田市(経済課)	335-0034	戸田市笹目3-8-3	048-421-3022
	JA川口市(経済課)	334-0003	鳩ヶ谷市坂下町1-9-6	048-281-0944
	JAあゆみ野(営農経済課)	334-0058	川口市大字安行領家1920	048-290-2212
	JA鴻巣市(営農経済課)	365-0071	鴻巣市寺谷473-1	048-596-2552
	JAあだち野(営農経済課)	362-0067	上尾市中分2-124	048-725-7212
	JAあさか野(経済課)	352-0011	新座市野火止4-5-21	048-479-1011
	JAいるま野(営農部経済課)	350-1155	川越市大字下赤坂1805-126	049-238-1117
	JA埼玉中央(営農部 営農推進課)	355-0811	東松山市加美町1-20	0493-25-2551
	JAちちぶ(営農経済部 指導課)	368-0005	秩父市大字大野原736	0494-22-0209
	JA埼玉ひびきの(営農販売課)	367-0055	本庄市若泉1-11-27	0495-24-7721
	JAくまがや(経済部 米麦課)	360-0014	熊谷市箱田5-8-2	048-521-6586
	JAふかや(営農経済部指導販売課)	366-0831	深谷市内ヶ島728-1	048-574-1159
	JA埼玉岡部(経済課)	369-0203	深谷市普濟1485-3	048-585-0991
	JA榛沢(販売課)	369-0221	深谷市榛沢新田580-1	048-585-2324
	JA花園(販売指導課)	369-1246	深谷市小前田1169	048-584-2166
	JAほくさい(営農販売課)	348-8513	羽生市東7-15-3	048-561-5000
	JA越谷市(営農課)	343-0011	越谷市増林2-82	048-963-0478
	JA南彩(営農部 営農販売課)	346-0105	久喜市菖蒲町新堀473	0480-87-1135
JAみずほ(経済部 営農販売課)	340-0114	幸手市東3-10-43	0480-44-2121	
JAさいかつ(北部経済センター)	342-0015	吉川市中井2-47-1	048-984-6381	